

A. 鉄筋の折り曲げ形状及び寸法

折り曲げ角度		180°	135°	90°
図				
折り曲げ直径 R	SD295A、SD345	3 d 以上		
	D16以下			
	SD295A、SD345	4 d 以上		
	D19～D41			
	SD390	5 d 以上		
	D19～D41			
	SD490			
	D29～D41			
鉄筋の余長		4 d 以上	6 d 以上*	8 d 以上*
*片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側先端、幅止め筋の先端で、90°フック、135°フックを用いる場合の余長は4d以上とする。				

(注) d は異形鉄筋の呼び名に用いた数値とする。

B. 鉄筋のフック

(a)～(e) に示す鉄筋の末端部にはフックを付ける。

(a) あばら筋、帯筋及び幅止め筋

(b) 柱の四隅にある主筋で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭

(c) 梁主筋の重ね継手が梁の出隅及び下端にある場合（基礎梁を除く）

(d) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）

(e) 杭基礎のベース筋

鉄筋のかぶり厚さ（溶接金網を含む）

部 位		設計かぶり厚さ (mm)		最小かぶり厚さ(mm)	
				仕上げあり	仕上げなし
土に接しない部分	スラブ・非耐力壁	壁内	30		20
		壁外	≧40	20	30
	柱・梁・耐力壁	壁内	40	30	30
		壁外	≧50	30	40
土に接する部分	換気壁・耐圧スラブ		50	40	
	柱・梁・スラブ・壁		50	40	
	基礎・換気壁・耐圧版		70	60	

(注)

- *は耐久性上有効な仕上げのある場合、30mmとしてよい。
- *は耐久性上有効な仕上げのある場合、40mmとしてよい。
- 打放し仕上の場合は、図面に指示をする。特に指示のない場合は構造断面より屋外は20mm以上ふかすものとする。
- 耐酸・耐熱・海水等の特殊な場合及び塩分を含む骨材を使用する場合のかぶり厚は特記による。
- 柱、梁の主筋にD29以上を使用する場合、主筋のかぶり厚さは径の1.5倍以上とする。
- 高炉セメントC種、シリカセメントC種及びフライアッシュセメントC種を用いる場合は、鋼合部材の大きさなどに応じて定め、係員の承認を受ける。

鉄筋の間隔

隣り合った鉄筋のあき (a) は、図面に指示のない限り原則として縦骨材の最大寸法の1.25倍以上、2.5mm以上かつ異形鉄筋の呼び名に用いた数値の1.5倍以上とする。

間 隔

呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32	D35	D38	D41
最外径 (D)	11	14	18	21	25	28	33	36	40	43	46
鉄筋間隔	20	36.0	39.0	43.0	49.5	58.0	65.5	76.5	84.0	92.5	107.5
	25	42.3	45.3	49.3	52.3	58.0	65.5	76.5	84.0	92.5	107.5

鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄筋とのあきも同様とする。

鉄筋の定着及び継手長さ

鉄筋の種類	設計基準強度 F_o (N/mm ²)	フック無		フック有	
		L1	L2	L1h	L2h
SD295A	18	45 d	40 d	35 d	30 d
	21	40 d	35 d	30 d	25 d
	24 ≦ F_o ≦ 36	35 d	30 d	25 d	20 d
	39 ≦ F_o ≦ 60	30 d	25 d	20 d	15 d
SD345	18	50 d	40 d	35 d	30 d
	21	45 d	35 d	30 d	25 d
	24 ≦ F_o ≦ 27	40 d	35 d	30 d	25 d
	30 ≦ F_o ≦ 45	35 d	30 d	25 d	20 d
SD390	18	50 d	40 d	35 d	30 d
	21	45 d	40 d	35 d	30 d
	24 ≦ F_o ≦ 27	45 d	40 d	35 d	30 d
	30 ≦ F_o ≦ 45	40 d	35 d	30 d	25 d
SD490	18	50 d	40 d	35 d	30 d
	21	50 d	40 d	35 d	30 d
	24 ≦ F_o ≦ 27	55 d	45 d	40 d	35 d
	30 ≦ F_o ≦ 36	50 d	40 d	35 d	30 d
SD490	39 ≦ F_o ≦ 45	45 d	40 d	35 d	30 d
	48 ≦ F_o ≦ 60	40 d	35 d	30 d	25 d

(注) 1. L1：重ね継手の長さ及び、2. 以外の直線定着の長さ。
L1h：フック有重ね継手の長さ、及び2. 以外のフック有定着の長さ。
2. L2：割製破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ。
L2h：割製破壊のおそれのない箇所へのフック有定着の長さ。
3. La：梁主筋の柱内折り曲げ定着の投影長さ。（基礎梁、片持ち梁、片持ちスラブを含む）
Lb：小梁及びスラブの上端筋の梁内折り曲げ定着の投影長さ。（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く）
4. L3：小梁及びスラブの下端筋の直線定着の長さ。（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く）
L3h：小梁の下端筋のフック有定着の長さ（基礎耐圧スラブ及びこれを受ける小梁を除く）
5. 表中の d は異形鉄筋の呼び名の数値を表し、丸鋼には適用しない。
6. 主筋及び耐力壁の重ね継手長さは、特記なき限り40 d（軽量コンクリートの場合は50 d）と上表の重ね継手長さのうち大きいほうとする。
7. 径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細いほうの d を用いる。
8. フック有の場合は、フックの部分の長さを含まない長さとする。また、中間部での折り曲げは行なわない。
9. D35以上の異形鉄筋においては、重ね継手を用いないものとする。
10. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5 dを加えたものとする。（主筋及び耐力壁の重ね継手長さを除く）

イ. 直線定着の場合

（フック無）

（フック有）

ロ. 曲げ定着の場合

（梁主筋の柱内折り曲げ定着の投影定着長さ）

（小梁及びスラブの上端筋の梁内折り曲げ定着の投影定着長さ）

*小梁下端筋の直線定着の場合はL3とする。

隣り合う継手の位置

a. 重ね継手の場合

（フック無）

（フック有）

b. 圧接継手の場合

ガス圧接

作業可能範囲

技量資格種別	作業可能範囲	
	鉄筋の種類	鉄筋径
1 種	SD295A、SD295B、SD345、SD390	D 2.5 以下
2 種	SD295A、SD295B、SD345、SD390	D 3.2 以下
3 種	SD295A、SD295B、SD345、SD390、SD490	D 3.8 以下
4 種	SD295A、SD295B、SD345、SD390、SD490	D 5.1 以下

※SD490を圧接する場合は施工前試験を行う。

圧接可能な鉄筋の種類の組合せ

鉄筋の種類	左記の鉄筋と圧接可能な鉄筋種類
SD295A	SD295A、SD295B、SD345
SD295B	SD295A、SD295B、SD345
SD345	SD295A、SD295B、SD345、SD390
SD390	SD345、SD390、SD490
SD490	SD390、SD490

(注)

- ガス圧接継手はD19以上の異径鉄筋に用いる。
- 有害なひび割れ、偏心 (D/5 以上) がある場合はやり直すこと。また、圧接端面は直角にみがかくこと。
- 同一種類の鉄筋でその径または呼び名の差が5mmを超える場合は圧接してはならない。
- 突き合わせた圧接端面はなるべく平行とし、周辺の隙間は3mm以下とする。

溶接金網の継手及び定着の長さ

A. 重ね継手 () ℓ

ℓは1節半以上かつ150mm以上

B. 壁の場合

C. スラブの場合 () ℓ

ℓは1節半以上かつ150mm以上

(注) 1. 溶接金網はJIS G 3551 (溶接金網) の規格品とする。ただし網目の形状、寸法及び鉄筋の径は特記による。
2. 溶接金網のかぶり厚さはき裂防止等の構造用配筋以外に使用の場合は配筋基準によるな
くてよい。

杭頭処理

場所打ちコンクリート杭

(注) 余盛り (h) は以下とする

(イ) 無水廻りの場合 h ≧ 500

(ロ) 無水廻り以外の場合 h ≧ 800

(ハ) 深礎の場合、余盛りは係員との協議による。

基礎梁接合部補強

A. ℓ ≦ 1000 の場合

B. ℓ > 1000 の場合

(注) よこ筋 ーD10-@250

たて筋 2-D10 ピッチSTPと同じ

W1：壁厚は梁幅と同じ

(注) たて・よこ筋共 D13-@200ダブル

W2：特記なき限り壁厚は梁幅と同じ

基礎梁の継手及び定着

A. 一般事項

(1) 梁筋は原則として柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は柱内に定着する。

(2) 主筋のカットオフ位置は設計図によることとし、特記のない場合は下記による。

(3) 仕口内定着において、主筋の長さが直線部で確保できる場合でも90°フックを設ける。(8 d 以上)

B. 独立基礎の場合

a. 基礎梁にスラブがつかない場合

(注) 1. 継手中心位置は下記による。

上端筋 中央部 ℓo / 2 以内

下端筋 中央部 ℓo / 2 以内

b. 基礎梁にスラブがつく場合

(注) 1. 継手中心位置は下記による。

上端筋 中央部 ℓo / 2 以内

下端筋 端 部 ℓo / 4 以内

C. 連続基礎又はベタ基礎の場合

(注) 1. 継手中心位置は下記による。

上端筋 端 部 ℓo / 4 以内

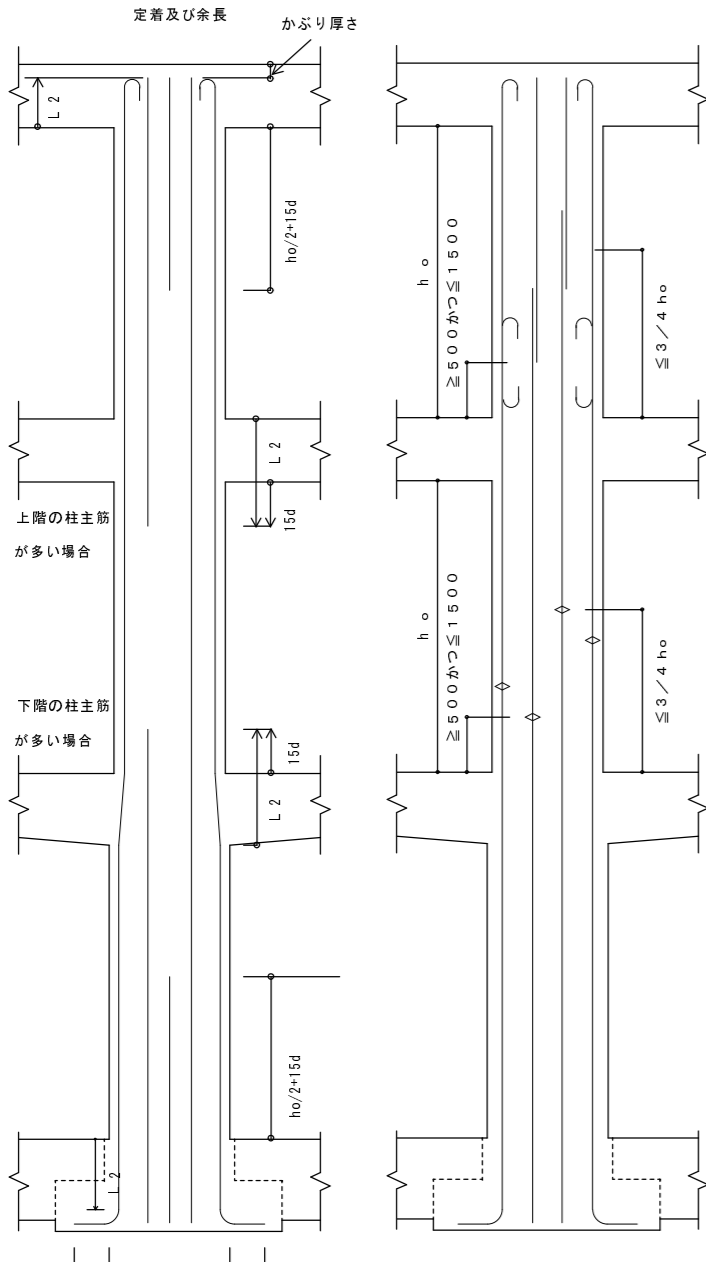
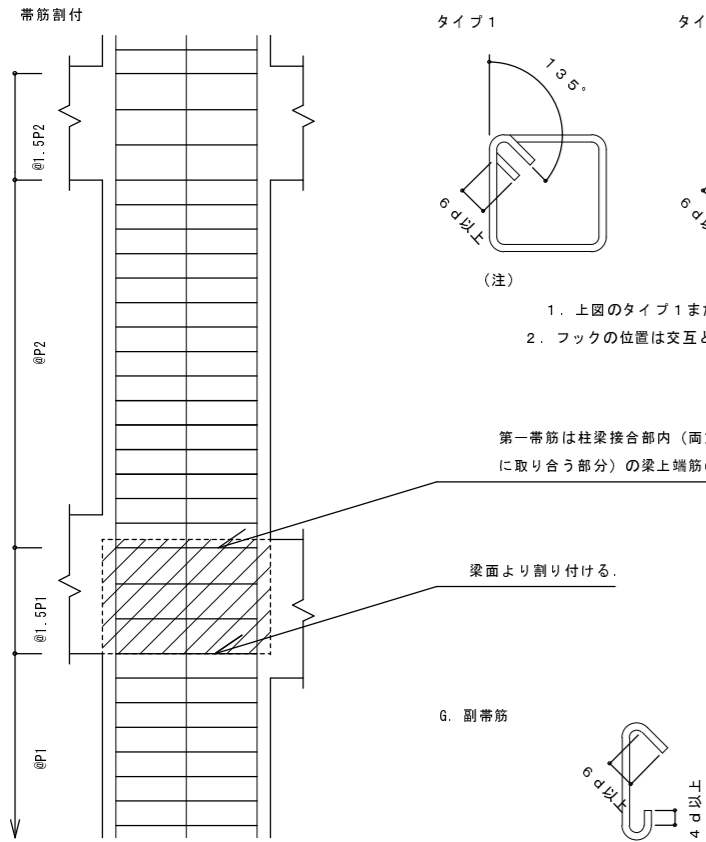
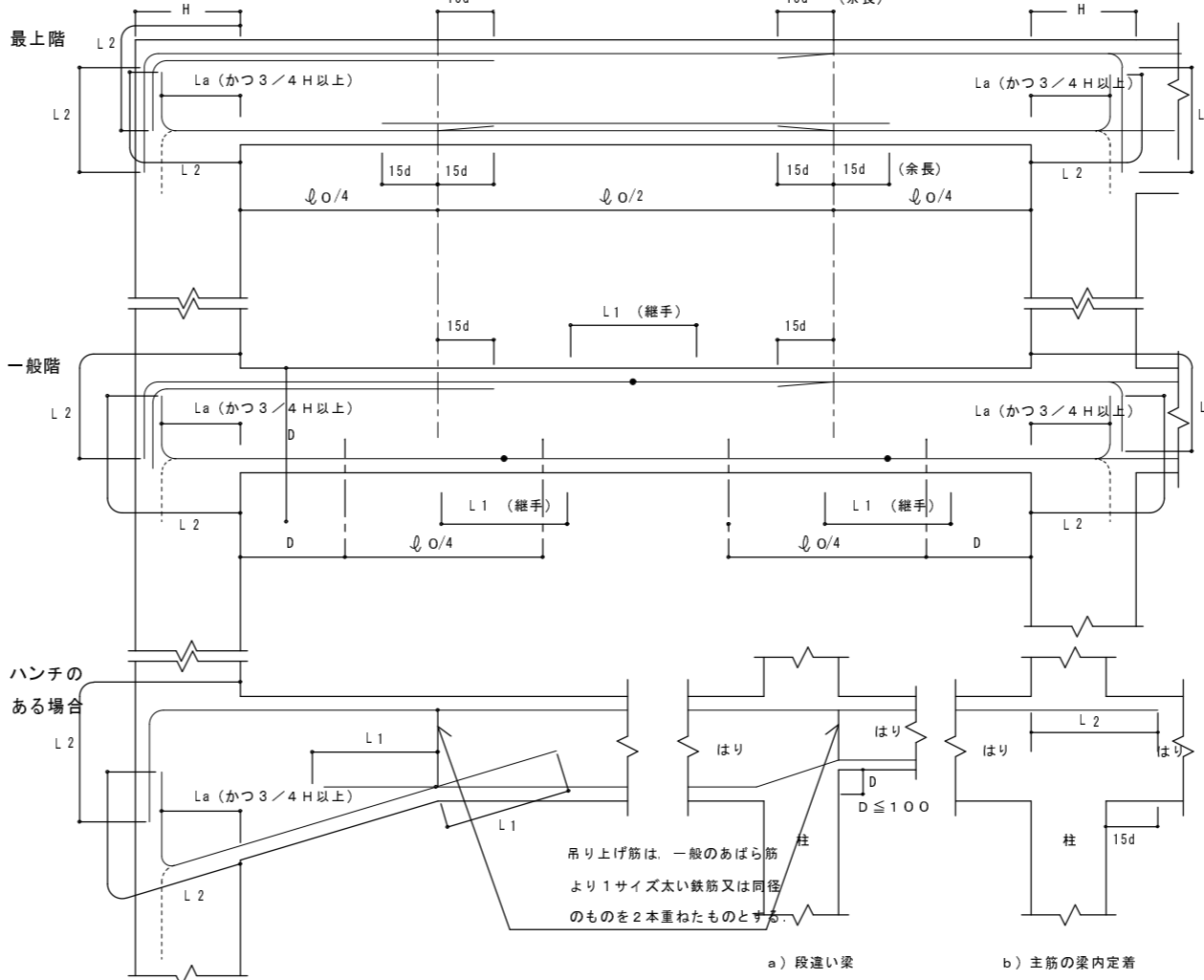
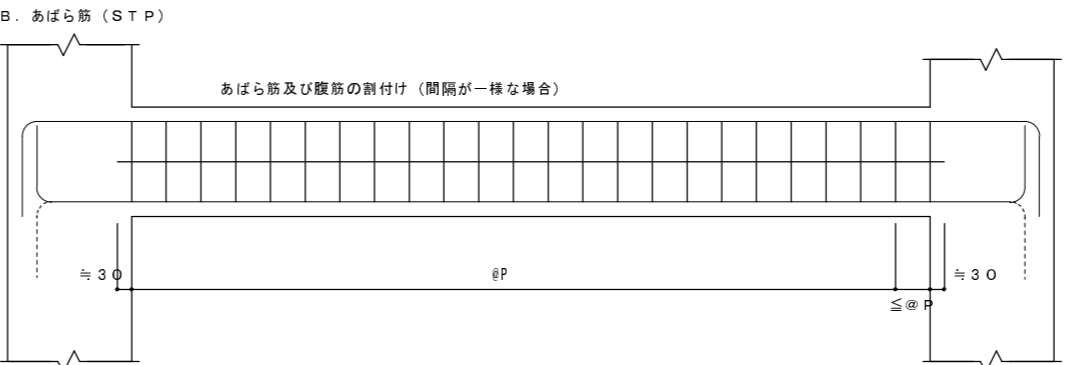
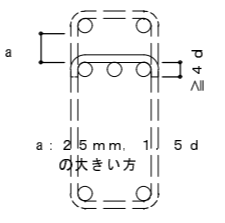
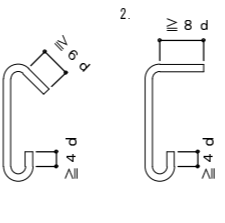
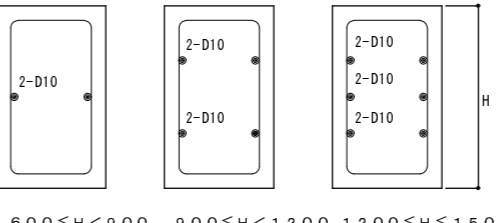
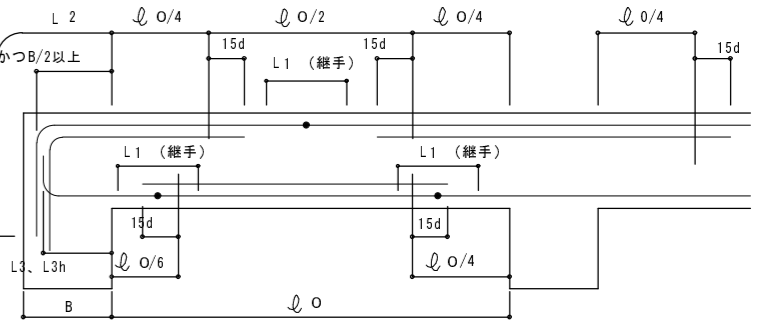
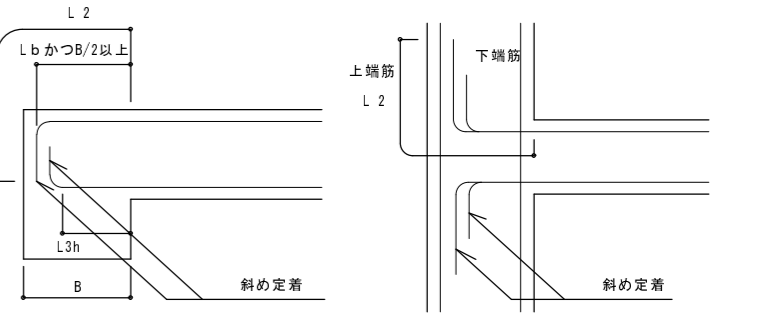
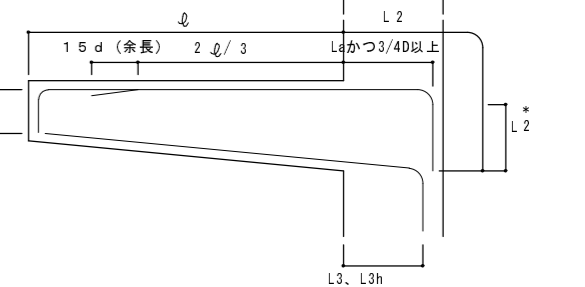
下端筋 中央部 ℓo / 2 以内

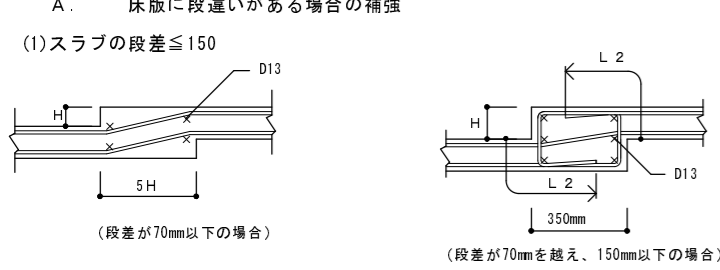
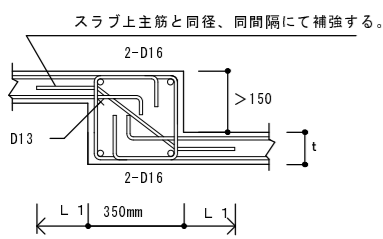
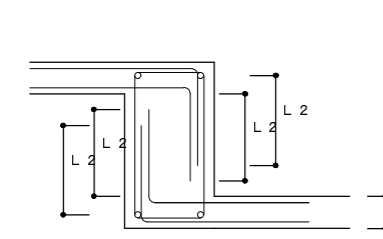
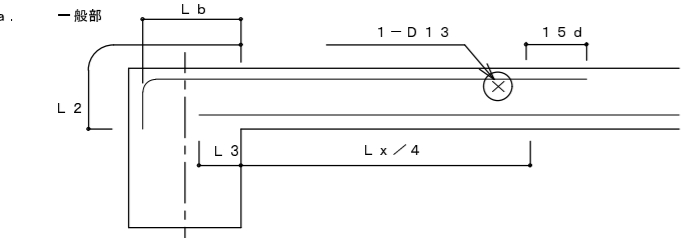
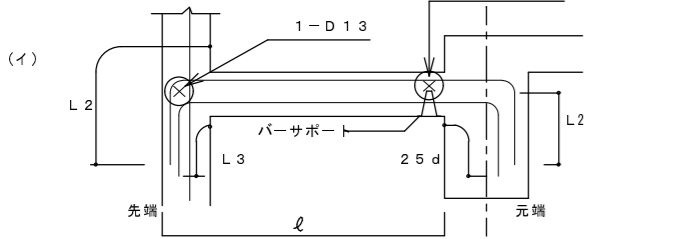
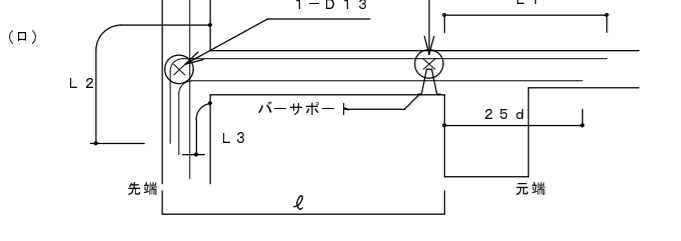
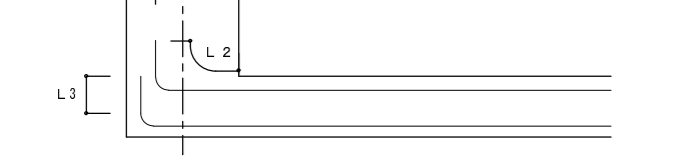
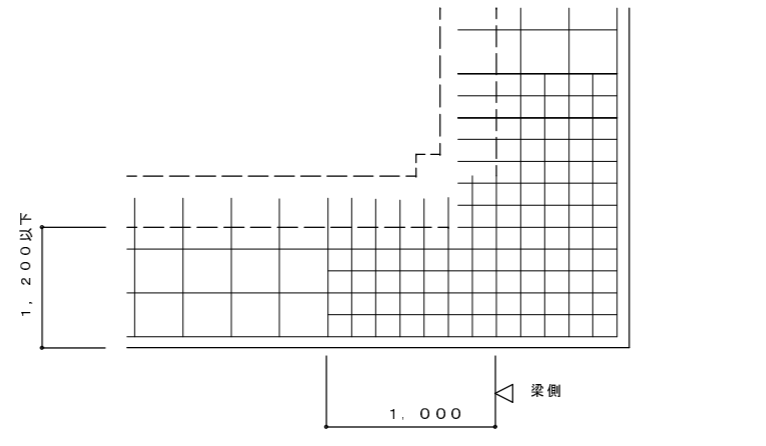
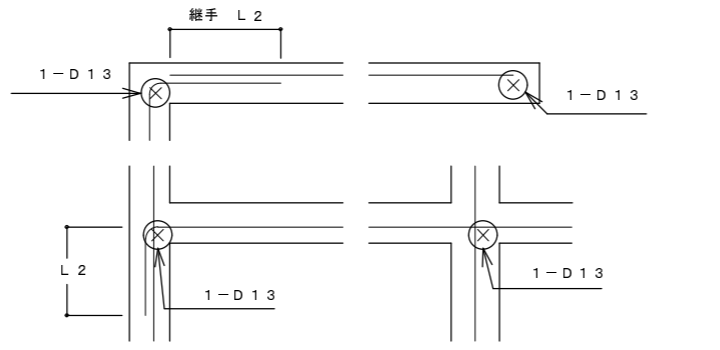
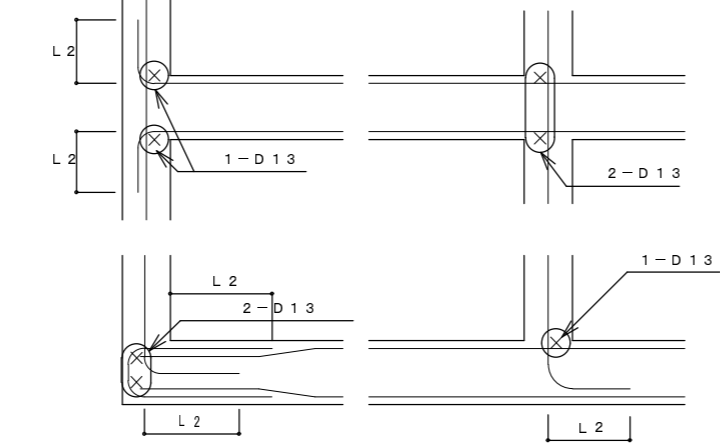
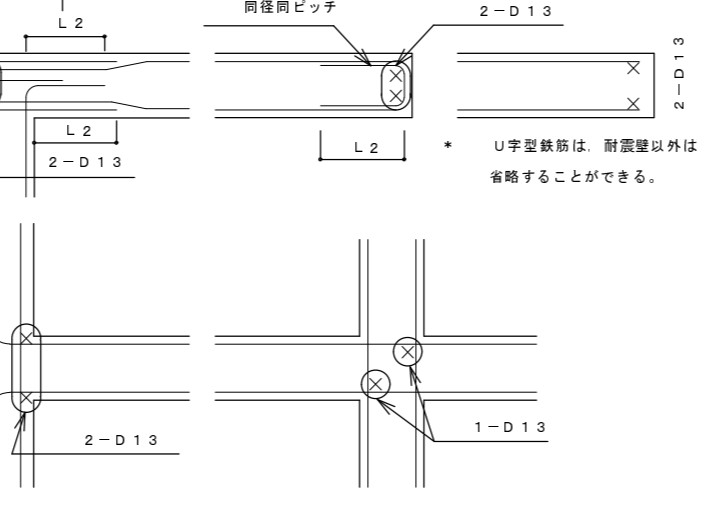
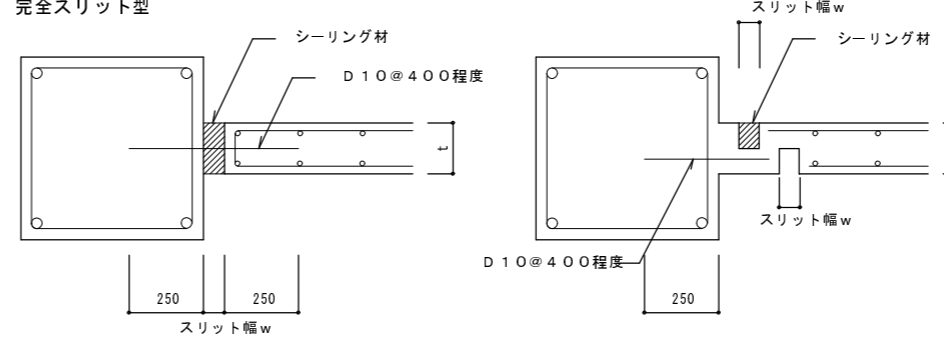
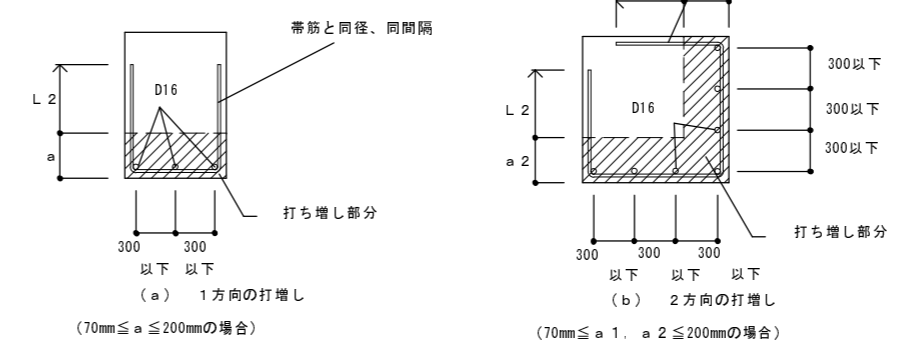
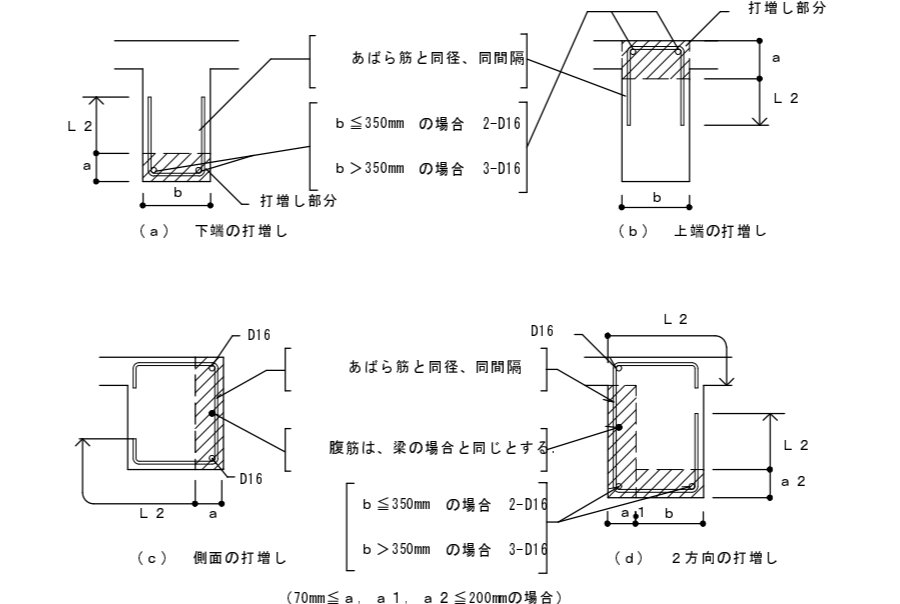
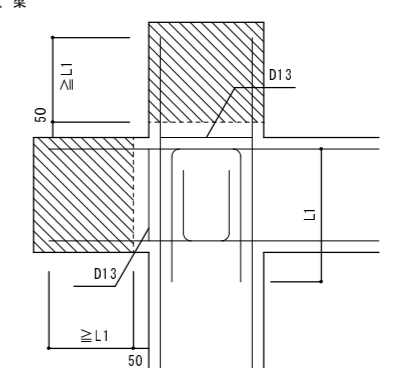
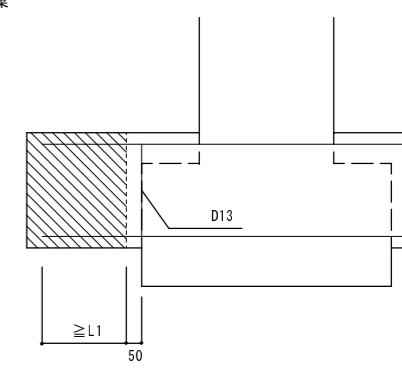
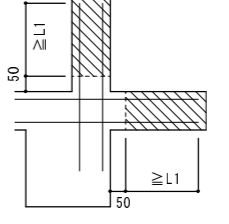
基礎梁のあばら筋

基礎梁あばら筋の補立ての形及びフックの位置は大梁の項による。

ただし、梁せいが1500mm以上の場合は下記によることができる。

コンクリート打継ぎ面

柱		大 梁		小梁・片持梁	
<p>A. 定 着</p>  <p>上階の柱主筋が多い場合</p> <p>下階の柱主筋が多い場合</p> <p>150mm以上</p> <p>150mm以上</p> <p>(注)</p> <ol style="list-style-type: none"> 柱頭の定着で、L2が確保できない場合は特記による。 異形鉄筋使用で上又は下さらに柱がない場合（基礎に定着の場合は除く）の柱主筋の内、四隅の主筋の末端部にはフックを付ける。 異形鉄筋使用で柱主筋の内、四隅の主筋が途中階で末端部となる場合の末端部にはフックを付ける。 継手中心位置は、梁上500以上、1500以下かつ4h以下 の範囲とする。圧接位置もこれに準ずる。 <p>F. 帯 筋（HOOP）</p>  <p>第一帯筋は柱梁接合部内（両方向の梁と柱が同時に取り合う部分）の梁上端筋の直上に配置する。</p> <p>梁面より割り付ける。</p> <p>8. 副帯筋</p> <p>6φ以上</p> <p>4d以上</p>		<p>A. 主筋の継手及び定着</p>  <p>最上階</p> <p>一般階</p> <p>ハンチのある場合</p> <p>a) 段違い梁</p> <p>b) 主筋の梁内定着</p> <p>(注) 1. 原則として、梁筋は柱をまたいで引き通すものとし、引き通すことができない場合は、柱内に定着する。また、やむを得ず梁内に定着する場合は、b)図とする。ただし、上階に柱がある場合の定着長さは とし、15dは必要ないものとする。</p> <p>2. 段違い梁はa)図による。平面上でずれる場合もこれに準ずる。D>100のときは鉄筋を柱内に定着する。</p> <p>3. 2段配筋の場合は、1m以内ごとに受け幅止メ筋D10を入れること。</p> <p>4. 継手および圧接中心位置は下記による。</p> <p>上端筋 0中央部 /2以内</p> <p>下端筋 端 部 柱面より梁せい（D/4以上離し、 /4以内</p> <p>5. 最上階上端一段筋を除く端部仕口内定着において、主筋の直線定着長さがL2hを確保できる場合はフック付定着も可とする。ただし直線部分でL2が確保できる場合でも直線定着は不可とする。（最上階上端一段筋は折曲げてからL2を確保する）</p> <p>6. 全筋のカットオフ位置は設計図によるものとし、特記の無い場合は上図による。</p> <p>B. あばら筋（STP）</p>  <p>あばら筋及び腹筋の割付け（間隔が一律な場合）</p> <p>タイプ1</p> <p>タイプ2</p> <p>タイプ3</p> <p>タイプ4</p> <p>C. 二段筋受筋形状</p>  <p>D. 副あばら筋形状</p>  <p>1.</p> <p>2.</p> <p>(注) タイプ1を原則とする。係員の承認を得てタイプ2とすることができる。</p> <p>E. 腹筋（特記なき場合）</p>  <p>600≦H<900</p> <p>900≦H<1200</p> <p>1200≦H≦1500</p> <p>(注) 1. 梁高が1500を超える時、特記なき場合腹筋はφ300以下とする。</p> <p>2. 幅止メ筋、端部、中央部ともSTPを考慮してφ1000以内で入れること。</p>		<p>A. 小梁の継手及び定着</p>  <p>B. 小梁の大梁あるいは小梁への定着（垂直断面）</p>  <p>C. 片持梁（先端に小梁のない場合）</p>  <p>(注) 1. 小梁の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上端主筋の直線定着長さがL2hを確保できる場合は、フックつき定着とすることができる。 ・継手および圧接中心位置は下記による。 上端筋 0中央部 /2以内 下端筋 外端部 0柱面より /6以内 内端部 柱面より /4以内 <p>2. 片持梁の場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端の折曲げ長さは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。 ・梁筋を引き通さない場合は、取合い部材に定着する。ただし柱に取合う場合は、全数引き通せる場合でも、上端筋は、2本以上を柱に定着する。 ・最上階は折曲げてからL2を確保する。 <p>3. 片持梁で先端に小梁のある場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先端小梁終端部の主筋は、片持梁内にL1水平定着する。 ・先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。 ・片持梁小口面は、先端小梁の腹筋を通し筋とする。 	
<p>特記事項</p> <p>構造設計一級建築士 第2313号 山本清人 [構造関係規定に適合することを確認した]</p>		<p>architects design office</p> <p>KOBAYASHI SEKKEI</p> <p>〒515-2101三重県松阪市星合町2198-2</p> <p>PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667</p> <p>知事登録 第1-1556号</p> <p>管理建築士第198323号</p> <p>小林 康弘</p>		<p>松阪市立嬉野中学校校舎大規模改造工事</p> <p>（ 第 2 期 ）</p> <p>エレベーター設置工事</p> <p>配筋基準図（2）</p>	
		<p>DATE</p> <p>2022. 1</p> <p>SCALE</p>		<p>TITLE</p> <p>SUBJECT</p>	
				<p>NO.</p> <p>S-03</p>	

床に段違いがある場合の補強・スラブ筋の定着		各階床版の補強		最上階の戸境壁及び妻壁の補強		増築予定	
<p>A. 床版に段違いがある場合の補強</p> <p>(1)スラブの段差≦150</p>  <p>(段差が70mm以下の場合)</p> <p>(段差が70mmを超え、150mm以下の場合)</p> <p>(2)150<スラブの段差≦2t</p> <p>スラブ上主筋と同径、同間隔にて補強する。</p>  <p>(3)段差が大きい場合</p>  <p>小 梁</p> <p>B. スラブ筋の定着</p> <p>a. 一般部</p>  <p>b. 片持スラブの定着は(イ)又は(ロ)による。</p> <p>(イ)</p>  <p>先端 元端</p> <p>(ロ)</p>  <p>先端 元端</p> <p>c. 逆スラブ</p> 		<p>各階床版の出隅及び入隅部分には補強筋を上端筋の下側に配置する。</p> <p>補強筋として溶接金網を使用する場合は、係員と協議すること。</p> <p>2階以上の床版を対象とする。</p> <p>片持スラブの隅部の補強</p>  <p>(注) 1. 主筋、配筋筋共、設計配筋の1/2倍のピッチにする。ただし、範囲は上図による。</p> <p>2. 片持スラブのはね出し長さが1,200を超える場合は特記による。</p> <p>壁（交差部・端部の定着及び配筋）</p> <p>A. 単配筋の場合</p>  <p>B. 複配筋と単配筋の場合</p>  <p>C. 複配筋と複配筋の場合</p>  <p>* 壁筋と同径同ピッチ</p> <p>* U字型鉄筋は、耐震壁以外は省略することができる。</p>		<p>5-D10@200</p> <p>・主要構造部となる最上階の全ての戸境壁及び妻壁には斜め補強筋を施す。</p> <p>スリットの形状</p> <p>完全スリット型</p>  <p>タイプ1</p> <p>タイプ2</p> <p>スリット幅w：2次壁の高さ（梁の場合は2次壁の長さ）の1/100以上</p> <p>打増し補強</p> <p>A. 柱の打増し補強</p>  <p>B. 梁の打増し補強</p>  <p>(注) 1. 200mm以上の場合は特記による。</p> <p>2. 構造計画に影響を及ぼすと思われる場合は、構造設計者と協議する。</p>		<p>将来増築予定のコンクリート増打部分は、増築時の鉄筋継手工法を考慮して設置する。</p> <p>A. 柱、梁</p>  <p>B. 地中梁</p>  <p>C. 床版、壁</p> 	
特記事項		architects design office		DATE		TITLE	
構造設計一級建築士 第2313号 山本清人 [構造関係規定に適合することを確認した]		KOBAYASHI SEKKEI		2022. 1		松阪市立嬉野中学校校舎大規模改造工事 (第2期)	
		株式会社 小林設計		SCALE		SUBJECT	
		〒515-2101 三重県松阪市皇合町2198-2 PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667				エレベーター設置工事 配筋基準図(3)	
		管理建築士第198323号 知事登録 第1-1556号 小林 康弘					
						NO.	
						S-04	

1. 工法概要

1.1 構成部材

①アンカーボルト
②注入座金
③Mナット
④ベースバックグラウト(グラウト材)
⑤定着座金
⑥テンプレート

⑦フレームポスト
⑧フレームベース
⑨ステコンアンカー
(コンクリートアンカー)
⑩ベースプレート

(注)上記①～⑩の構成部材はベースパック構成部品として供給される。
(注)上記⑥～⑩は現場状況により仕様が異なる場合がある。

1.2 柱脚の定着方法概要

3. 構成部材・寸法

3.1 ベースプレート

●材質
SN490B [JIS G 3136]

形状 (イ) 形状 (ハ)

3.3 Mナット

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

呼び	A	B	(e)
M27	22	41	47
M30	24	46	53
M33	26	50	58
M36	29	55	64
M39	31	60	69

3.4 定着座金

i) アンカーフレーム Aタイプの場合

適用アンカーボルト	g1	t	d	材質
M27	55	9	28	SS400
M30	55	9	31	
M33	60	9	34	
M36	65	12	37	
M39	80	12	40	

ii) アンカーフレーム Cタイプ の場合

適用アンカーボルト	g1	g2	t	d	材質
M30	55	168	9	32	SS400
M33	60	173	9	35	
M36	65	178	9	38	
M39	80	183	12	40	

3.5 注入座金

【建築基準法第37条第二号に基づく国土交通大臣認定材料】

記号	適用アンカーボルト	a1	a2	c	t	d
PM27	M27	32	42	101	18	28
PM30	M30	32	42	101	18	31
PM33	M33	35	45	110	18	34
PM36	M36	35	45	110	18	37
PM39	M39	38	48	118	18	40

3.6 フレームベース

i) Aタイプ ii) Cタイプ iii) 特Cタイプ

3.7 アンカーフレーム形状および据付け時諸寸法

●ベースパックの据付け高さ (h寸法) はフレームベース下端からコンクリート柱型天端までを示す。据付けに最低限必要な高さ (最低h寸法) は下表に記載の値とする。

< Aタイプ >		< Cタイプ ※ >		< 特Cタイプ >	
h寸法	W	h寸法	W	h寸法	W
90	50	90	50	90	50

※ 杭頭納まり及び配筋状況に合わせて特Cタイプを選択できる。

4. コンクリート柱型

4.1 形状・材質

●形状
柱型寸法を標準から変更する場合は、別紙「ベースパック柱脚工法における柱型寸法最大・最小値一覧」による。

●コンクリート
普通コンクリートとし、設計基準強度は21N/mm²以上とする。

●鉄筋
SD295 (D13, D16)
SD345 (D19, D22)

4.2 配筋

※立上り筋の頂部にはフックを設けなくてよい。
※トップフープはダブルとし、柱型上端近くに配置する。

4.3 基礎立上がり

●基礎立上がり高さは50mm以下とする。
※ただし基礎立上がり高さが50mmを超え300mm以下の場合、Lシリーズを使用することができる。

6. 工事場施工

6.1 基礎工事

●柱脚部の捨コンの厚さは90mm以上とし、表面は平滑に仕上げる。

6.2 アンカーボルト据付け

●アンカーボルト (フレーム) の組立ては、4隅のアンカーボルト4本で組立てを行う。

●フレームベースはステコンアンカーにより水平に固定する。

●位置決めは、テンプレートの中心線と地墨等の柱心を合致させることにより行い、標準許容差は下図による。

図

柱心 テンプレート中心線 けがき線

アンカーボルト

e1 : 柱心とテンプレートのけがき線との許容差

標準許容差

-2 ≤ e1 ≤ 2

基準高さより誤差は

-3 ≤ e ≤ 10

6.3 配筋およびコンクリート打設

●配筋はアンカーボルト (フレーム) との取り合いを考慮する。

●コンクリート打設前にテンプレート位置精度を確認する。

6.4 建方

●レベルモルタルはベースパックグラウト (グラウト材) を使用し大きさは右図による。

6.5 アンカーボルトの本締め (弛み止め)

●本締めはグラウト材の充填前に行い、ダブルナットを標準とする。

6.6 ベースパックグラウト (グラウト材) の注入

●グラウト材のカクハンは、グラウト材1袋 (6kg) に対して、計量カップで1.0～1.1ℓの水を加え、電動カクハン機で混練することにより行う。

●グラウト材の注入は、グラウトロートを注入座金にセットし、グラウト材の自重圧により他の注入座金からグラウト材が噴き出るまで行う。

7. 本工法の施工及び施工管理

●本工法は、管理者又は施工者 (元請) の管理のもとで実施するものとする。

●本工法のうち 6. 2 アンカーボルト据付け及び 6. 6 ベースパックグラウトの注入は、ベースパック施工技術委員会によって認定された有資格者 (ベースパック施工管理技術者・施工技能者) が施工を実施し、チェックシート等により施工管理を行うものとする。

●ベースプレート溶接部の施工管理は、鉄骨製作者に属する鉄骨製作管理技術者等による。

特記事項
構造設計一級建築士 第2313号 山本清人 [構造関係規定に適合することを確認した]

architects design office

株式会社 小林設計
〒515-2101 三重県松阪市星合町2198-2
PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667
管理建築士第198323号
知事登録 第1-1556号 小林 康弘

DATE
2022. 1

SCALE

TITLE
松阪市立嬉野中学校校舎大規模改造工事
(第2期)

SUBJECT
エレベーター設置工事
柱脚固定工法標準図

NO.
S-06

鉄骨構造標準図

1. 共通事項

- A. 記 事
1. 設計図書に記載なき場合は本標準図による。
2. 本標準図の単位はすべてmmとする。
3. 特記なき限り鉄骨加工は認定工場とする。
- 「全鋼連グレード資格」 (M)

B. 立会検査

1. 現寸検査	4. 溶接検査
2. 開先検査	5. 製品検査
3. 仮付検査	6. 立方検査

- C. 提出書類
1. 告示第1103号認定書
2. 全鋼連資格認定書
3. 鉄骨加工施工要領書 (資格者名簿含む)
4. 工作図
5. ミルシート (全製品)
6. 開先検査表
7. 製品検査表
8. 超音波探傷検査要領書

2. 使用材料

A. 構造材

一般構造用鋼材	JIS G 3101 による規格品
圧延形鋼	SS400
軽量形鋼	SS400
角形鋼管	BCR295
鋼 管	STK400
溶接構造用鋼材	JIS G 3106 による規格品 SM400 SM490
ボルト	黒ボルト:母屋、胴縁に使用する。 中ボルト:SS400 座金「材質—」 アンカボルト:SS400
高力ボルト	F10T-JIS表示認定工場の製品。 F10T (摩擦係数 $\mu=0.45$) 高力ボルトはセットで使用する。
スタッドコネクタ	SS400
溶接材料	軟鋼用被覆7-ク溶接棒 JIS Z 3211による規格品。

B. 防錆塗装

	塗装箇所	塗 装 名	塗 回 数	
工場塗装	共同住宅	鉛・クロムフリー 錆止めペイント	3	
		△	△	
現場塗装	共同住宅	△	△	
		△	△	
塗装名 JIS K 5621 (一般用さび止めペイント) JIS K 5674 (鉛・クロムフリーさび止めペイント)				

3. 試験及び検査

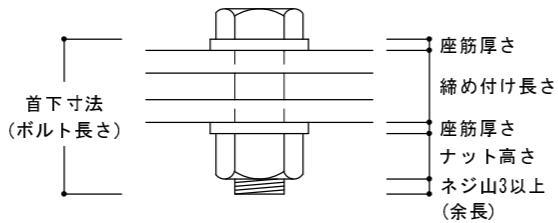
- A. 鋼 材
- 引張— JIS Z 2241金属材料引張試験・JIS Z 3101一般構造圧延鋼材
- 曲げ JIS Z 2248金属材料曲げ試験・JIS Z 0303鋼材の検査通則

- B. 高力ボルト
- 日本建築学会「高力ボルト設計施工指針」に準換する。

- C. 溶 接 部
- 超音波探傷検査
1. 検査基準 日本建築学会「鋼構造建築溶接部の超音波探傷検査基準」による。
2. 検査箇所 完全溶込み溶接部の 30 %
3. 報告書 探傷検査の報告書
4. 検査者 N D 認定の超音波検査2級以上 (検査専門会社)
5. 検査 立会検査、受入検査

4. 高力ボルト

- JIS B 1186「摩擦接合用高力ボルト・六角ナット・平座金セット」及び 特殊高力ボルトに規定された2種F10T (S10T) とする。



1. ボルト孔の径 (単位: mm)

ボルトの種類	ねじの呼び	M 1 2	M 1 6	M 2 0	M 2 2	M 2 4
高力ボルト (F10T、S10T)		1 4 . 0	1 8 . 0	2 2 . 0	2 4 . 0	2 6 . 0
溶融亜鉛メッキ高力ボルト (F8T)			1 7 . 5	2 2 . 0	2 4 . 0	2 6 . 0
普通ボルト		1 2 . 5	1 6 . 5	2 0 . 5	2 2 . 5	2 4 . 5

2. ボルトの締め付け長さに加える長さ (単位: mm)

ボルトの種類	ねじの呼び	M 1 2	M 1 6	M 2 0	M 2 2	M 2 4
高力ボルト		2 5	3 0	3 5	4 0	4 5
特殊高力ボルト			2 5	3 0	3 5	4 0
溶融亜鉛メッキ高力ボルト			3 0	3 5	4 0	4 5

- トルクコントロールボルトの場合はメーカー規格による。

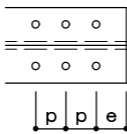
5. 継 手

1. 縁端距離及びボルト間隔

縁端距離及びボルト間隔は、下表の値を標準とする。ただし引張材の接合部分において、せん断を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、ボルト軸径の2. 5 倍以上とする。

(単位: mm)

ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M 1 6	4 0	6 0
M 2 0		
M 2 2		
M 2 4	4 5	7 0

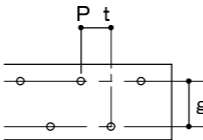


2. 千鳥打ちのゲージ間隔

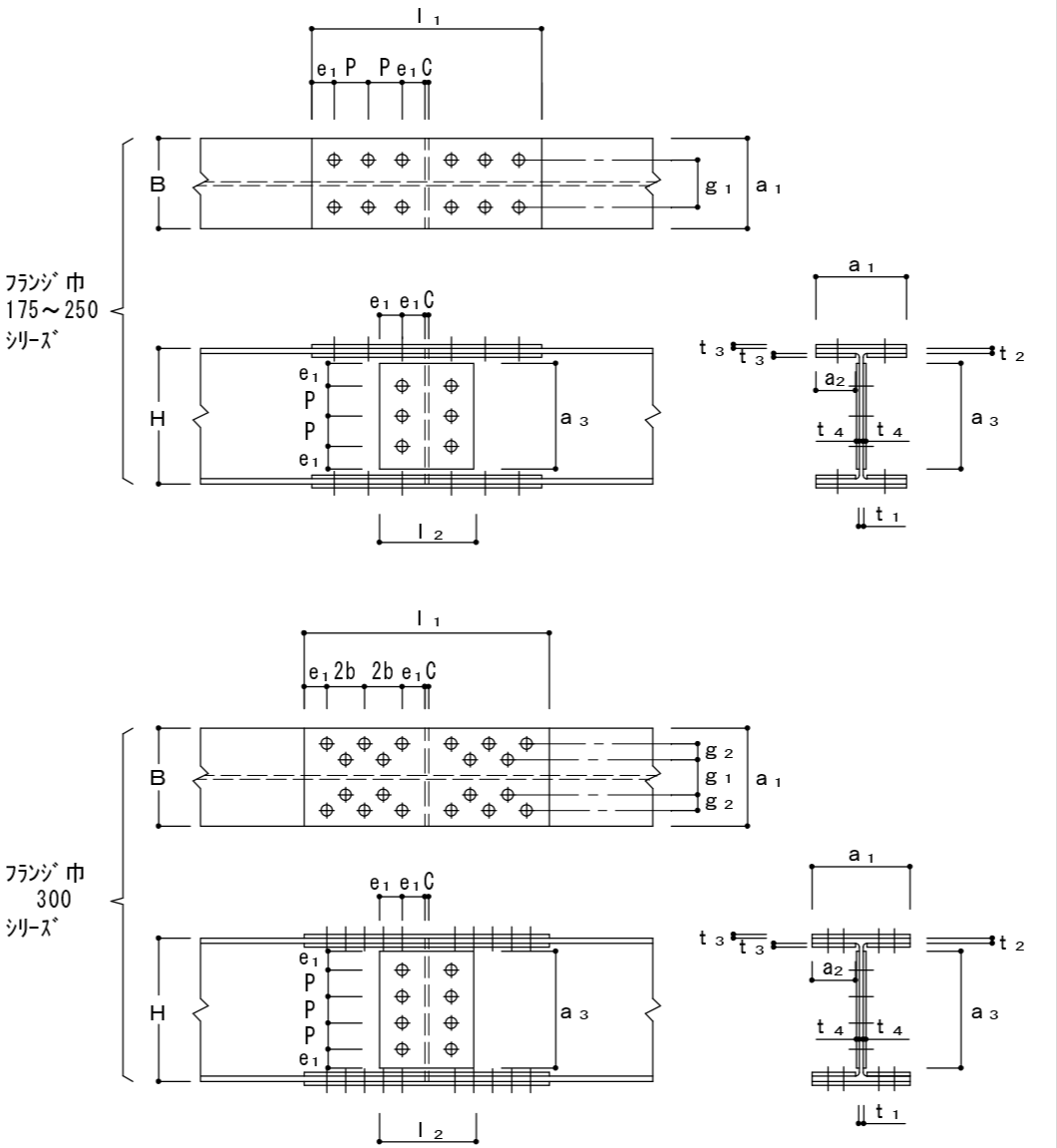
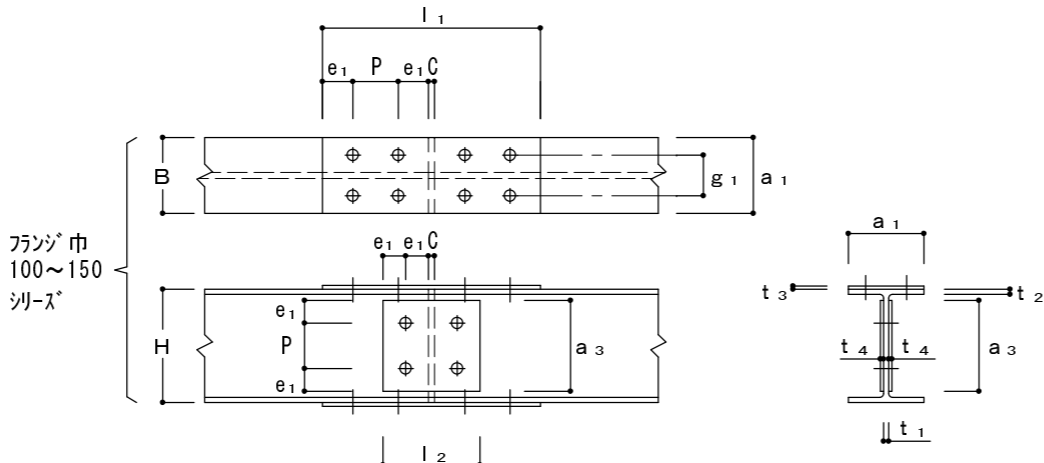
千鳥打ちのゲージ及び間隔は、下表の値を標準とする。

(単位: mm)

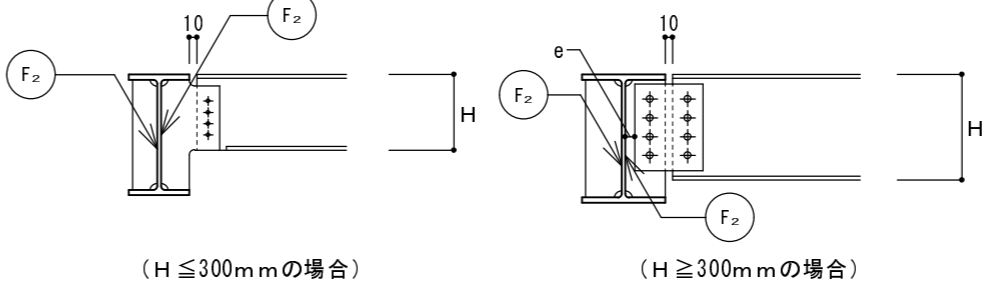
ゲージ g	千鳥打ちの間隔 (P t)	
	ねじの呼び	
	M 1 6、M 2 0、M 2 2	M 2 4
3 5	5 0	6 5
4 0	4 5	6 0
4 5	4 0	5 5
5 0	3 5	5 0
5 5	2 5	4 5
6 0	—	4 0



3. 大 梁



3. 小 梁



(H ≤ 300mm の場合) (H ≥ 300mm の場合)

- (注) 1. 高力ボルトの施工性を考慮して、e ≥ 20 とする。
2. 大梁の仕口部においてピン接合の場合は、この図を準用する。

6. 継 手

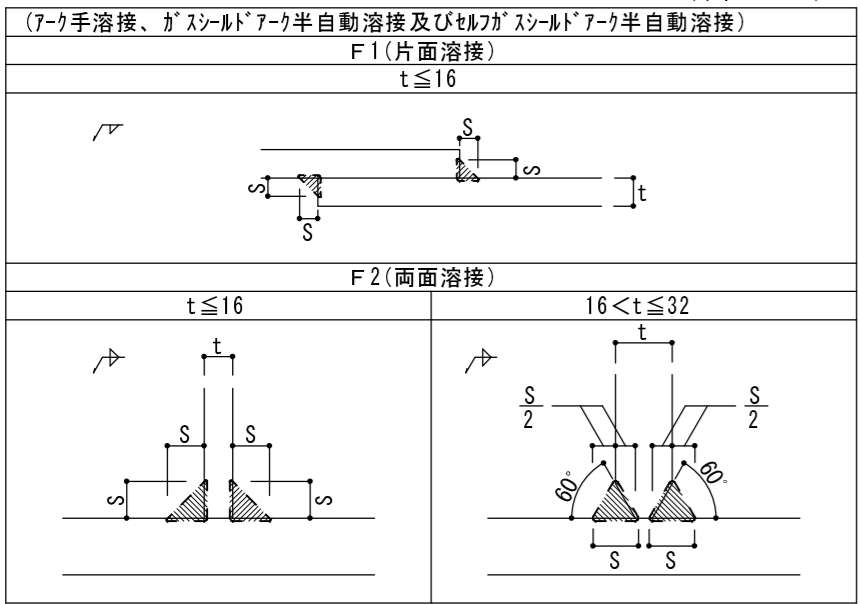
A. 完全溶込み溶接開先基準

(7-ク手溶接・ガスシールド7-ク半自動溶接及びセルフガスシールド7-ク半自動溶接)		(サブマージアーク自動溶接)	
HB1 (片面溶接)	HB2 (両面溶接)	AB1 (片面溶接)	AB2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 50		22 < t ≤ 50	

(7-ク手溶接・ガスシールド7-ク半自動溶接及びセルフガスシールド7-ク半自動溶接)		(サブマージアーク自動溶接)	
19 < t ≤ 50		22 < t ≤ 50	
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 50		22 < t ≤ 50	
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 50		22 < t ≤ 50	

B. 隅肉溶接

(単位：mm)



隅肉溶接のサイズ

(単位：mm)

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12

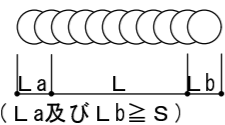
t	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	36	40
S	10	11	11	12	13	13	14	15	16	16	17	17	18	18	19	22	24	

注) 1) 隅肉溶接の長さ

設計図書(図面及び仕様書)に示す断続隅肉溶接

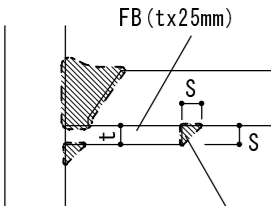
長さは、右図の有効長さ(L)とし、隅肉のサイズ

(S)の1.0倍以上とする。ただし、有効長さは、ビードの始点(La)及びクレーター(Lb)を除いた部分の長さとする。



C. 裏当て金の溶接

- 1) 完全溶込み溶接の片面溶接に用いる裏当て金は、原則としてフランジ内側に設置し、取付方法は下図による断続隅肉溶接とし、溶接間隔は溶接部に支障を与えない程度とする。
- 2) 裏当て金の材質は、特記なき限りSS400とする。



裏当て金の厚さ

(単位：mm)

溶接工法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ

(単位：mm)

裏当て金の長さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

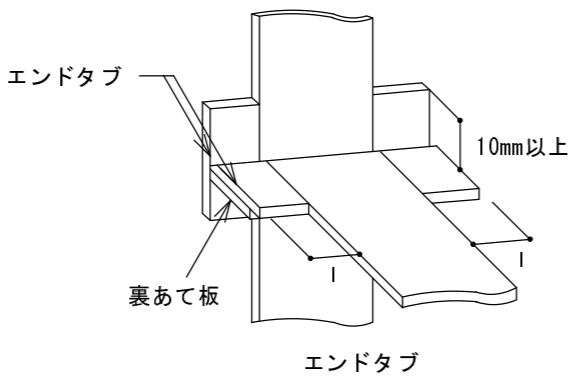
裏当て金の厚さ

(単位：mm)

t	溶接の長さ(L)	
	手溶接・半自動溶接	自動溶接
3.2以下	3.0程度	4.0程度
3.2を超え2.5未満	4.0程度	5.0程度
2.5以上	5.0程度	7.0程度

D. エンドタブ

エンドタブの材質は、母材と同等以上のものとし、形状は同厚・同開先のものを用い、長さは、下図及び下表のとおりとする。ただし、あらかじめ溶接付加試験によって溶接端部に欠陥が生じないことが確認された材質及び形状のものを用いる場合はこの限りではない。



エンドタブの長さ (単位：mm)

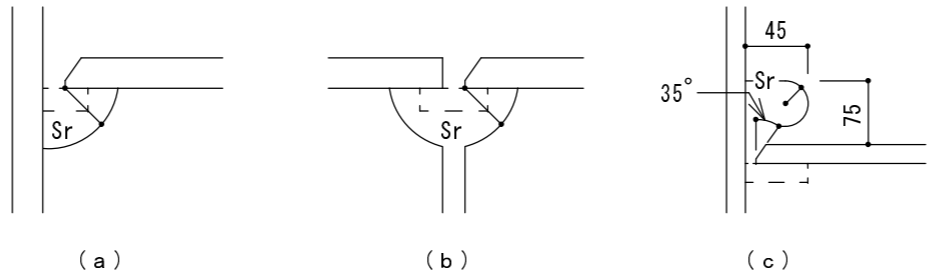
溶接工法	l
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

注) 1) 溶接付加試験とは「新エンドタブ工法(代替エンドタブ工法及びエンドタブ省略工法)に関する標準化方策」(日本鋼構造協会)にもとづいて実施するものをいう。

エンドタブは原則として、溶接終了後、母材より5～10mm程度残して切断し、グラインダー仕上げを行う。

E. スカラップ

スカラップ半径(Sr)は30mmを標準とする。ただし組立H形鋼の場合は、スカラップ内ウェブフィレットの回し溶接部を避けるためスカラップ半径を35mmとし、現場溶接の下フランジの場合は、下図(c)に示す形状を用いることができる。



スカラップ形状

現場溶接の下フランジ部スカラップ

7. 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径

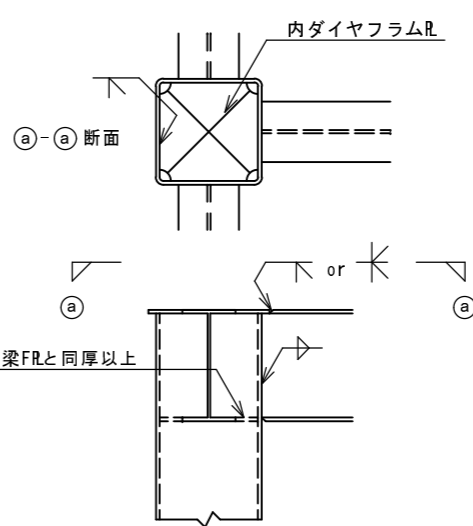
(単位：mm)

A又はB		B		H	
g1	g2	g1	g2	g3	
4.0	2.2	10.0*	6.0	1.6	4.0
4.5	2.5	12.5	7.5	1.6	5.0
5.0	3.0	16.0	9.0	2.2	6.5
6.0	3.5	17.5	10.5	2.2	7.0
6.5	3.5	20.0	12.0	2.4	7.5
7.0	4.0	20.0	15.0	2.4	8.0
7.5	4.0	22.0	15.0	2.4	9.0
8.0	4.5	22.0	14.0	2.4	10.0
9.0	5.0	24.0	14.0	2.4	
10.0	5.5	24.0			
12.5	5.0	3.5	2.4	1. H形鋼のB=300は、千鳥打ちとした時のゲージ標準である。	
13.0	5.0	4.0	2.4	2. *印の欄のg、および最大軸径の値は、強度上支障がない場合で、最小縁端距離の規定にかかわらず用いることができる。	
15.0	5.5	5.5	2.4		
17.5	6.0	7.0	2.4		
20.0	6.0	9.0	2.4		

8. 柱梁接合部及び継手

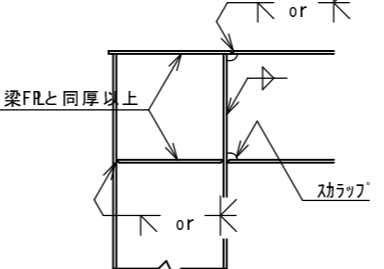
◎鋼管柱の継手

A. 内ダイヤフラム形式

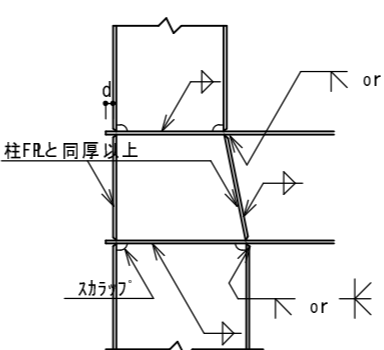


◎H形鋼の継手

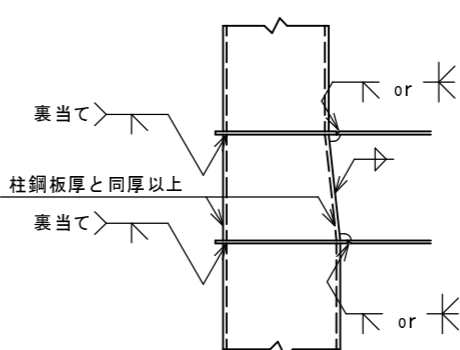
A. 柱通し



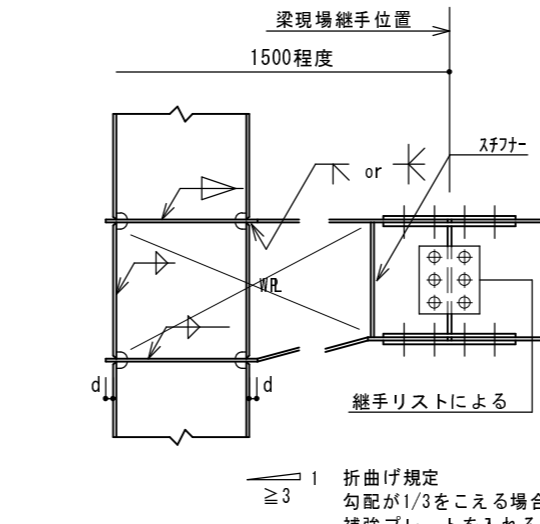
B. 梁通し



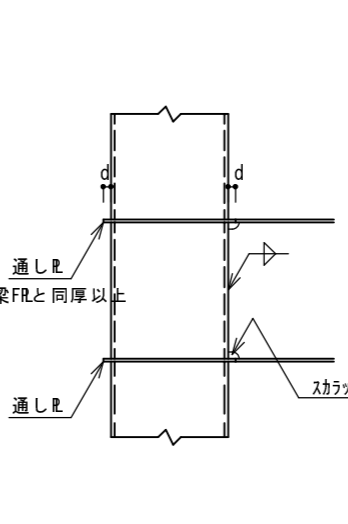
B. 通しダイヤフラム形式



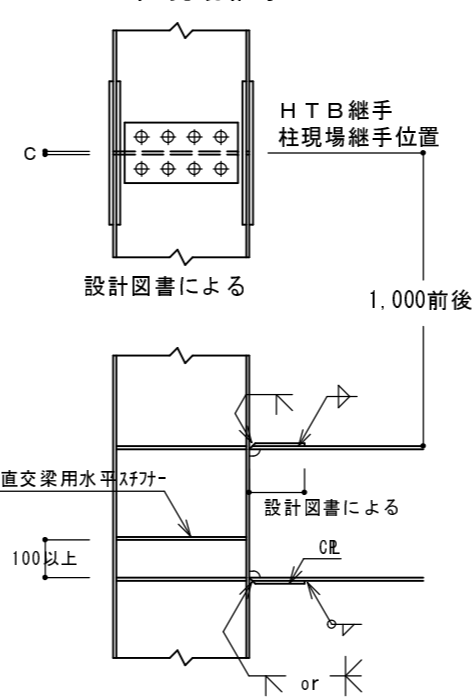
C. ハンチ梁



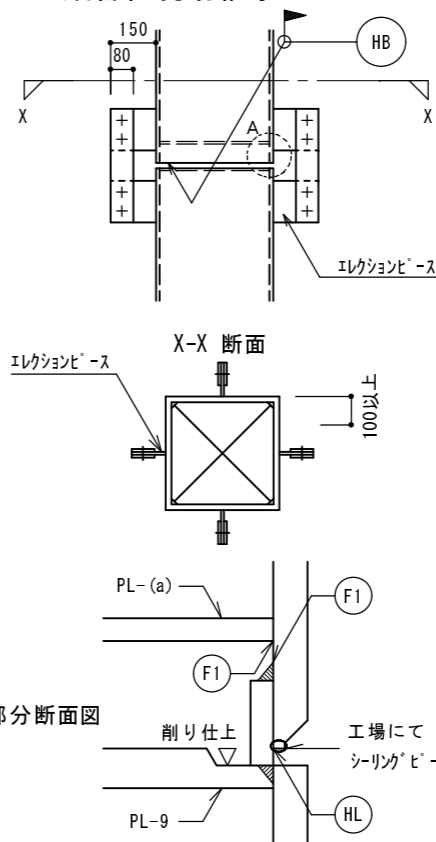
C. 雑仕様



D. H形柱現場継手

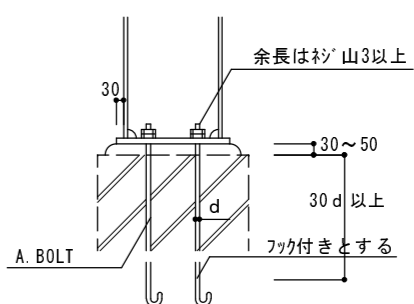


D. 鋼管柱現場継手

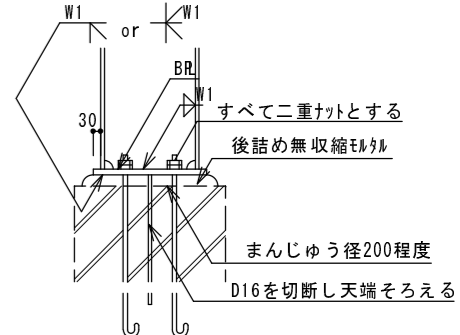


9. 柱脚

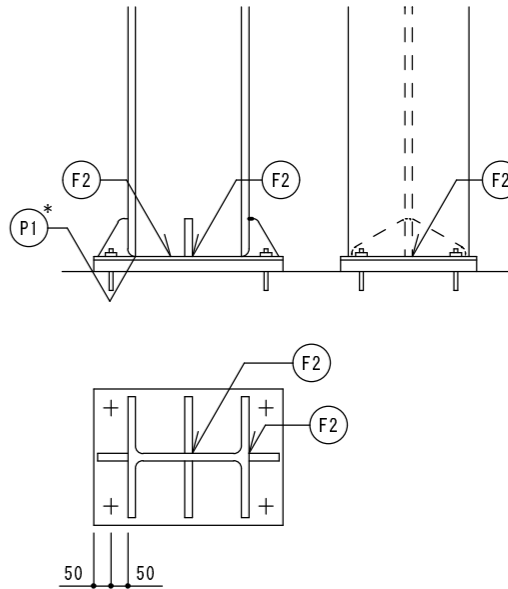
A. 柱脚ピン
(前面塗り仕上げ工法)



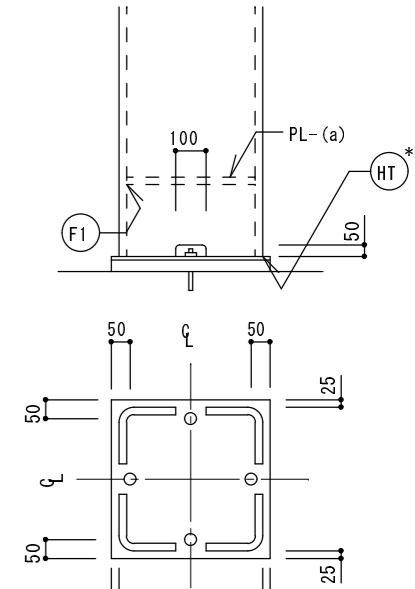
(後詰め工法)



1. H形柱脚部(柱脚ピン)

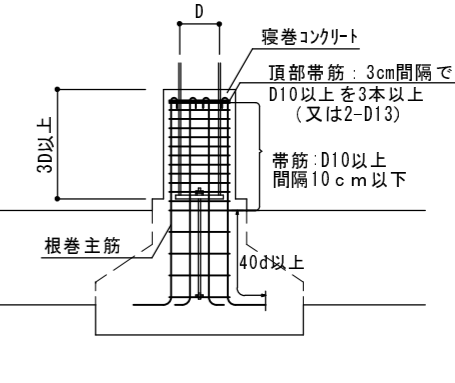


1. 鋼管柱脚部(柱脚ピン)

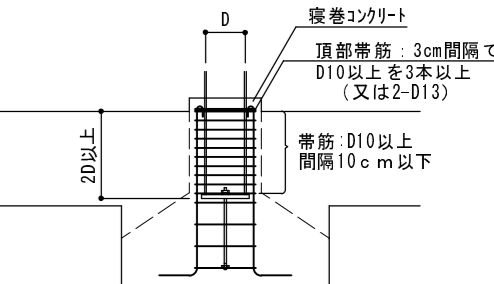


B. 柱脚を固定する場合

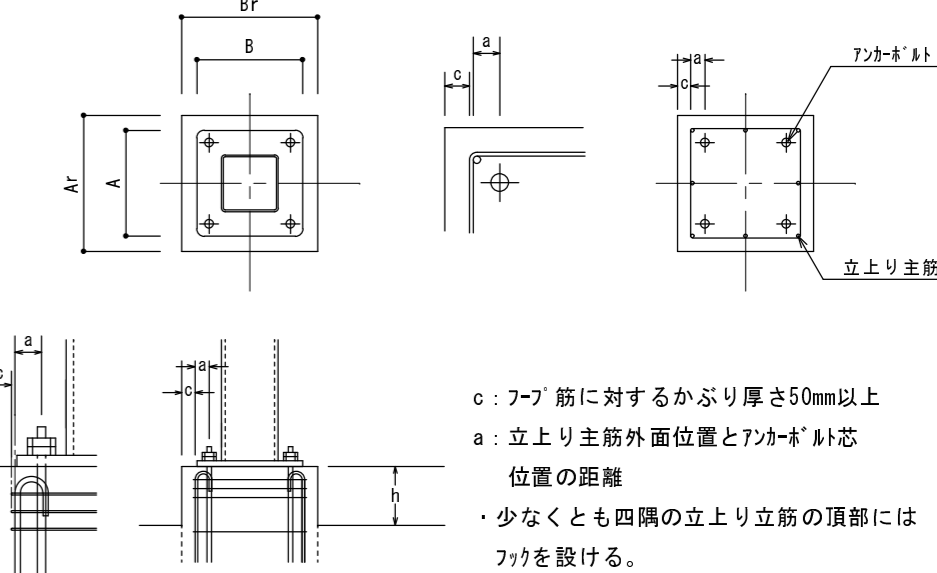
1. 根巻柱脚



2. 埋込柱脚



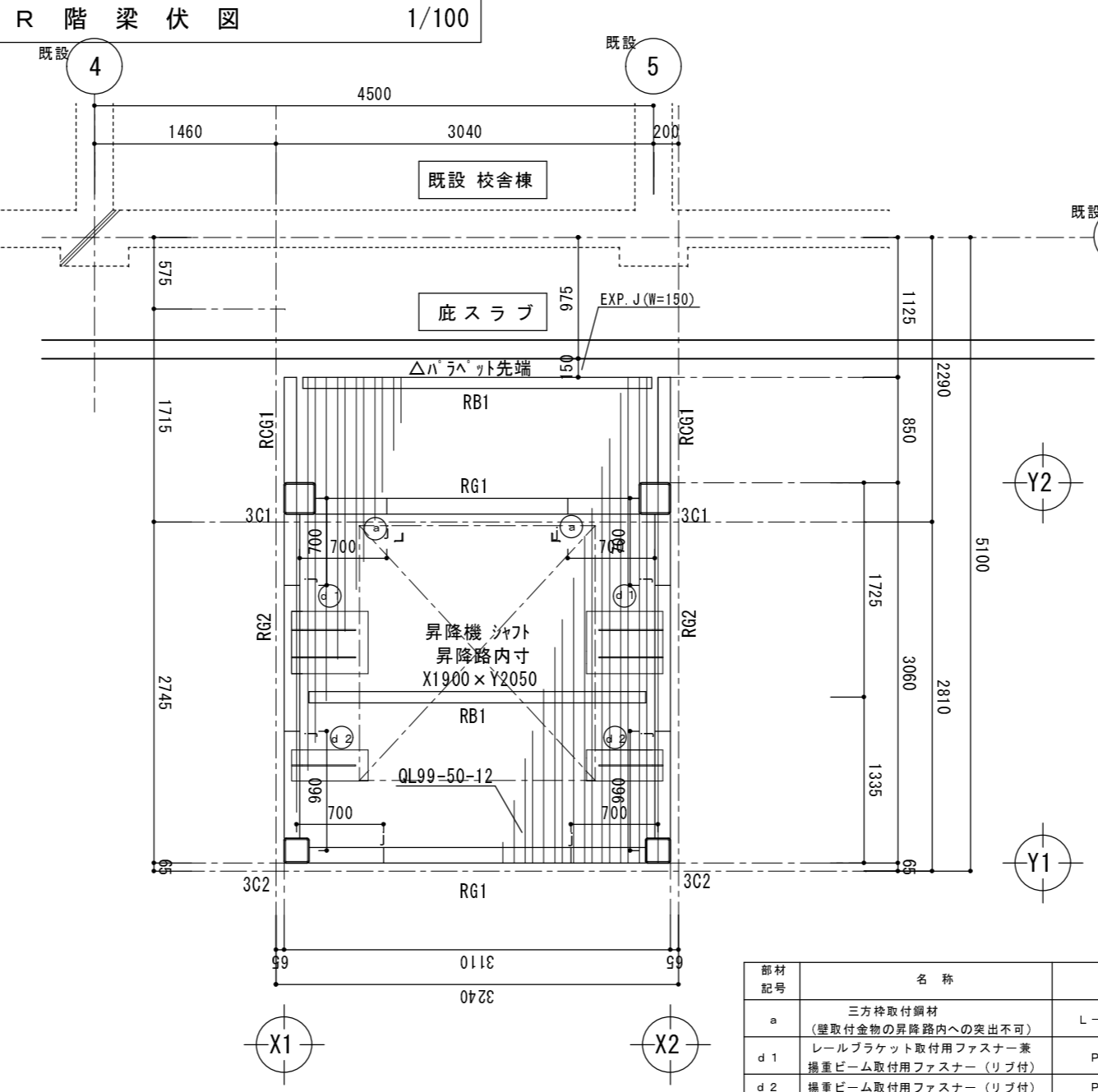
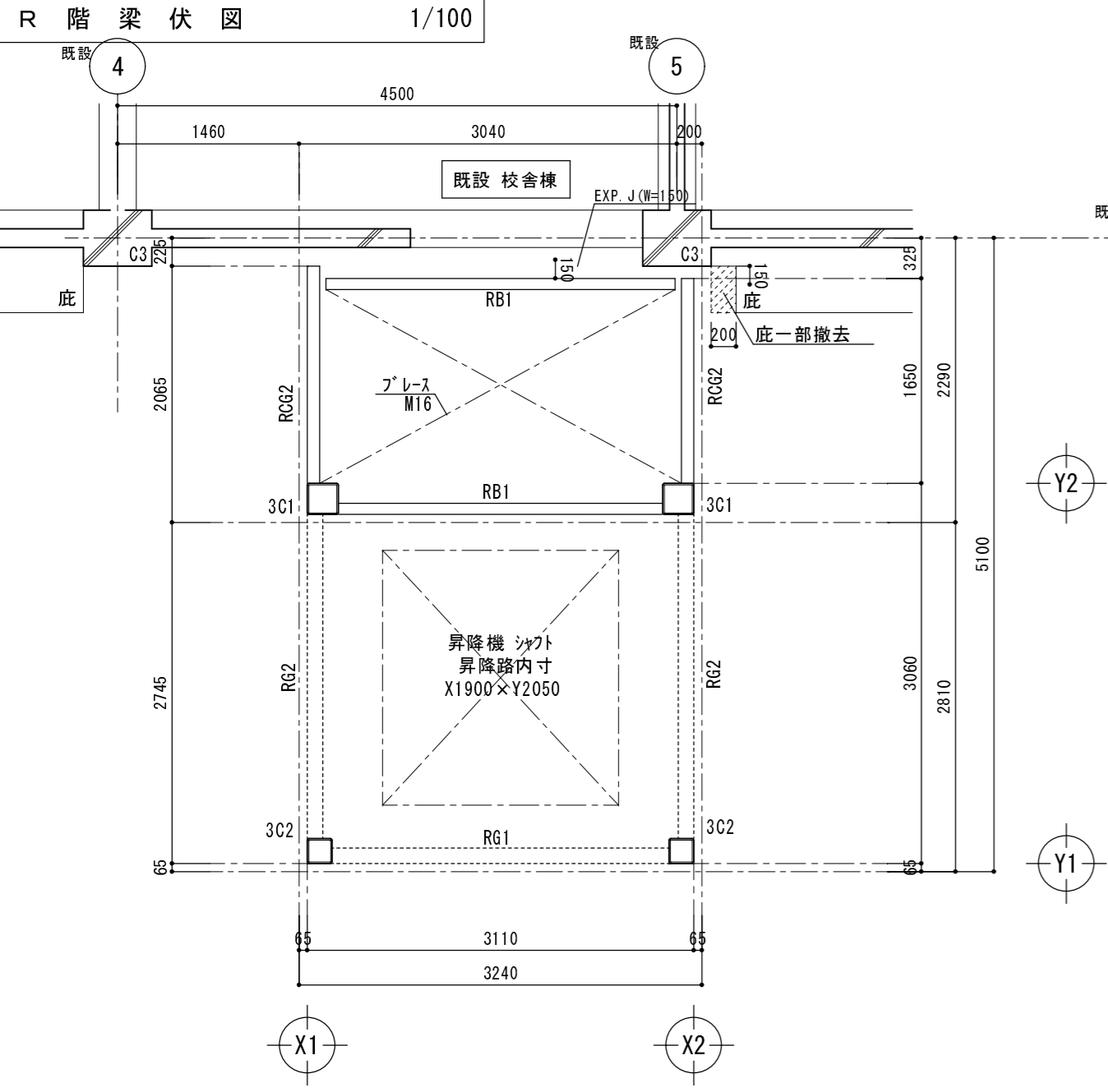
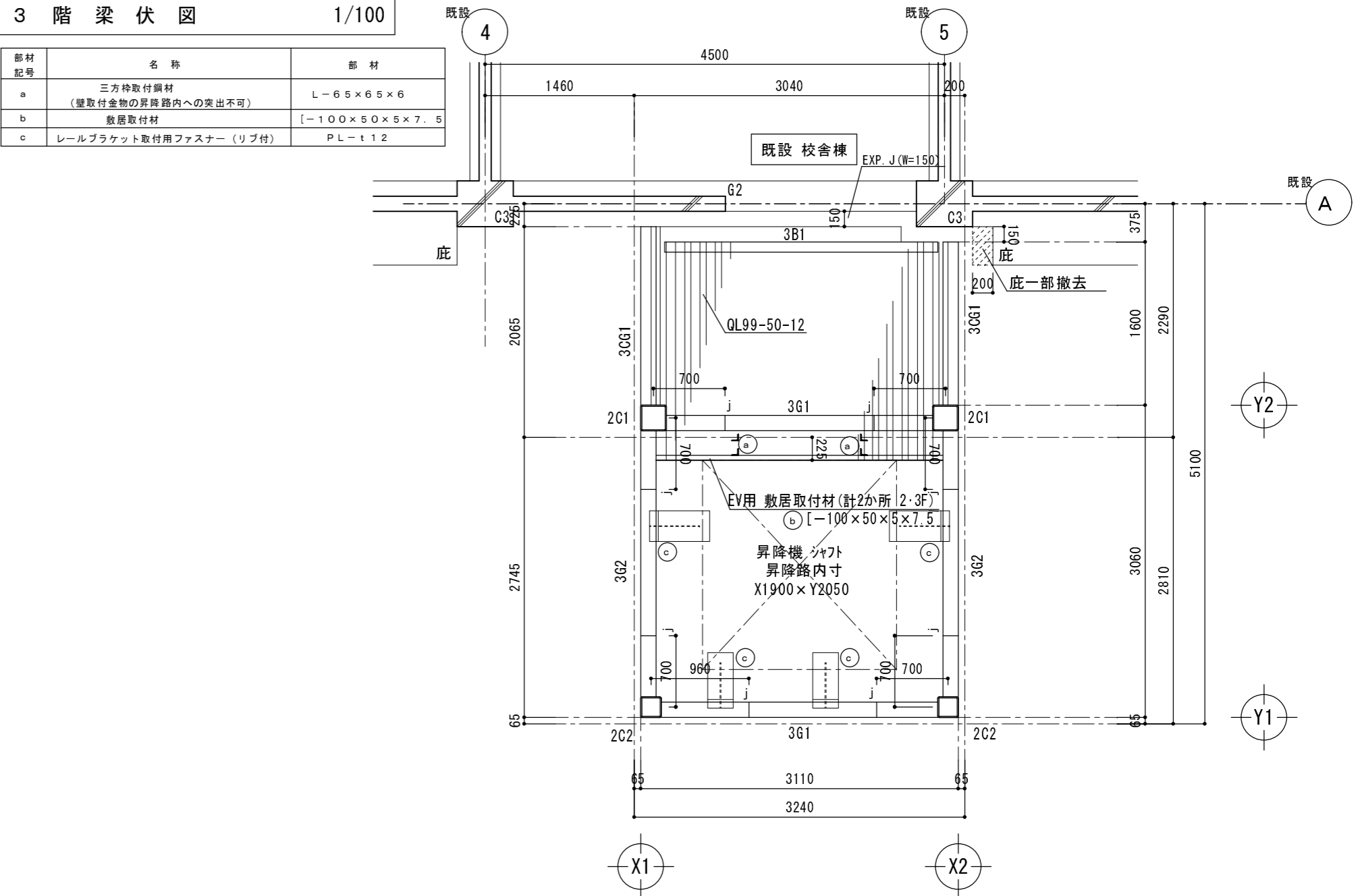
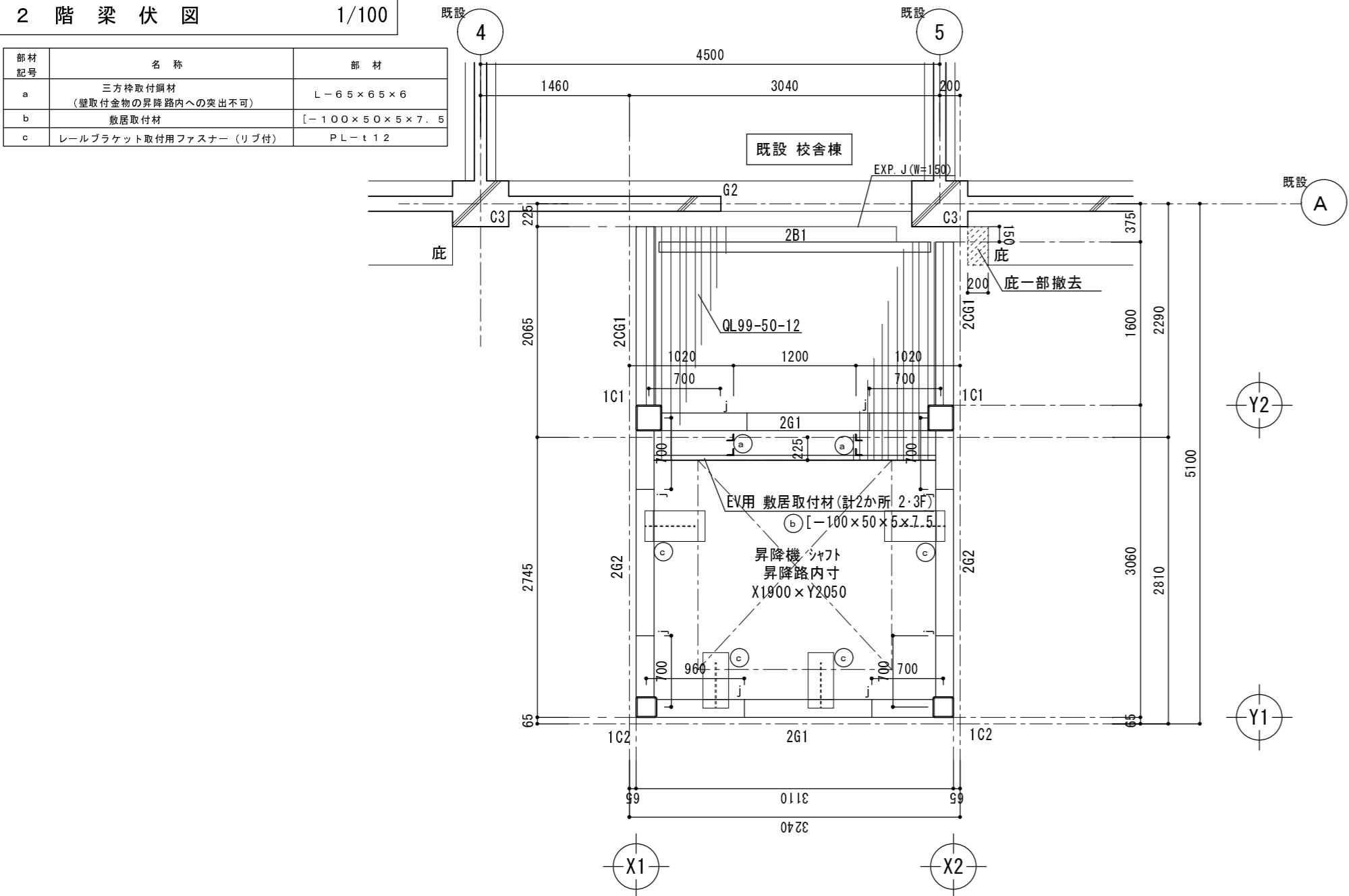
3. 露出形柱脚



c: フラグに対するかぶり厚さ50mm以上

a: 立上り主筋外面位置とアンカーボルト位置の距離

・少なくとも四隅の立上り立筋の頂部にはフックを設ける。

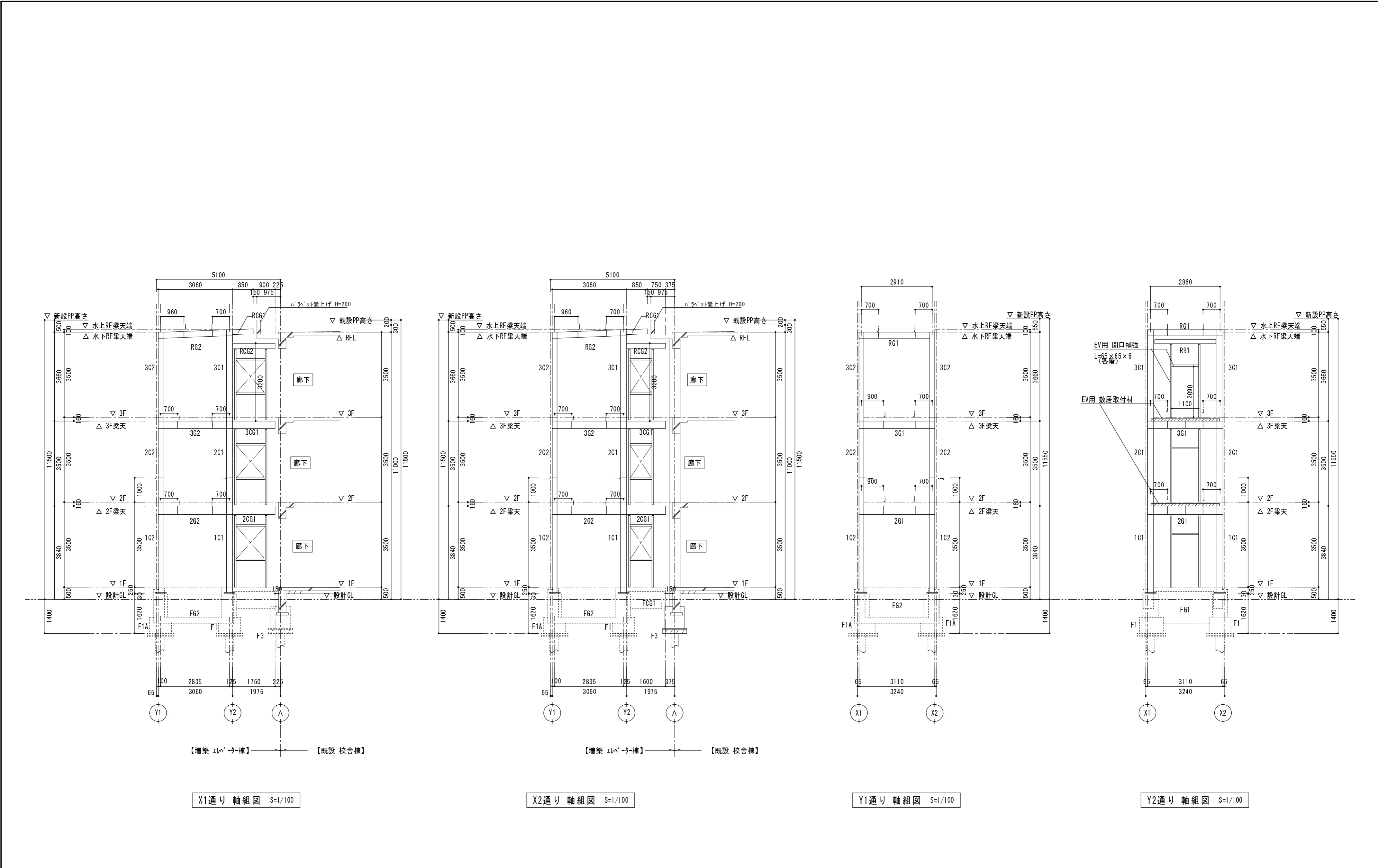


部 材 表			
1C1	□-250×250×12	2C61	H-350×175×7×11
3C1、2C1	□-250×250×9	3C61	H-300×150×6.5×9
1C2、2C2	□-200×200×12	RC61	H-248×124×5×8
3C2	□-200×200×9	RC62	H-200×100×5.5×8
2G1、2G2	H-350×175×7×11	2B1・3B1	H-200×100×5.5×8
3G1、3G2	H-300×150×6.5×9	RB1	H-175×90×5×8
RG1、RG2	H-250×125×6×9		
デッキ PL	QLデッキ-99-50-12 山上80mm		
	溶接金網6Φ-150×150		

※ EV用 揚重ビーム取付用ファスナー、リブ補強材、開口補強、敷居取付材、レールブラケット取付用ファスナーは、「鉄骨工事」。
※ EV用 部材は、EVメーカー仕様と打合せを行うこと。

凡例
柱：BCR295
ダイヤフラム：SN490C (PL-16以上)
大梁・片持梁：SN400B
小梁・その他：SS400
高張力ボルト：S-10T

(耐火1時間)
柱・大梁：耐火被覆ロケール吹付け t=25

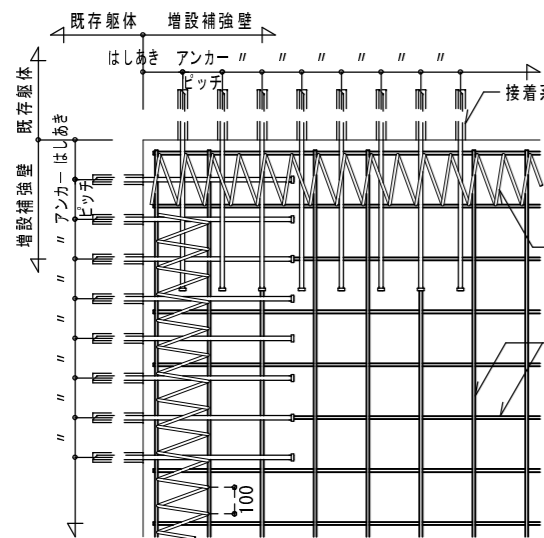


特記事項 構造設計一級建築士 第2313号 山本清人 [構造関係規定に適合することを確認した]	architects design office		KOBAYASHI SEKKEI	DATE 2022. 1	TITLE 松阪市立嬉野中学校校舎大規模改造工事 (第2期)	NO. S-12
	株式会社 小林設計		〒515-2101 三重県松阪市皇倉町2198-2 管理建築士第198323号 PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667 知事登録 第1-1556号 小林 康弘	SCALE 1/100 A3:1/141	SUBJECT エレベーター設置工事 鉄骨軸組図	

建 物 概 要		耐 震 改 修 工 事 特 記 仕 様 書																					
<div><div>■</div>工事名称<div>松阪市立嬉野中学校大規模改造工事</div></div> <div><div>■</div>所在地<div>松阪市嬉野下之庄町1725番地</div></div> <div><div>■</div>用 途<div>中学校</div></div> <div><div>■</div>規 模<div>地下 0 階 ・地上 3 階 ・塔屋 1 階 建築面積 約 818 m² 延面積 約 1464 m²</div></div> <div><div>■</div>設計年<div>昭 和 45年</div></div> <div><div>■</div>竣工年<div>昭 和 46年</div></div> <div><div>■</div>主要構造<div>鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 造</div></div> <div><div>■</div>架構形式<div>X 方向 耐震壁付きラーメン構造 Y方向 耐震壁付きラーメン構造</div></div>	<div>■</div> 本仕様書に記載されていない事項については次を参考とする。 <div>a. 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針（日本建築防災協会） b. 既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修事例集 （日本建築防災協会）</div> <div>用語の定義は次の通りとする。 ・ 監理員 本工事の請負契約書に記名捺印した監理者が四会連合協定工事請負契約約款に定められた監理者の業務を委託した担当者。</div> <div>■</div> 型枠工事 <div>○ 型枠の組立は、打上がりコンクリート部材の位置及び断面寸法の精度が十分保たれるよう、特に注意して行う。 また、既存部材と型枠との取り合い部は、モルタル等の漏出が生じないよう適切な措置を講ずる。 ○ 鋼板を巻いて柱を補強する工法においては、コンクリートの側圧による鋼板のはらみ出しを防ぐような適切な措置を講ずる。 ○ 特殊型枠使用の場合は、監理員の承認を得ること。</div> <div>■</div> コンクリート工事 <div>特記なき限り、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 （2018 年度版）」による ○ 工事に先立ち、施工計画書および調合計画書を作成し、監理員の承認を得ること。</div>					<div>■</div> 鉄筋工事 <div>○ 異形鉄筋 SD295A D10 D16 ～ SD345 D19 D25 ～ ○ 丸鋼（スバイラル筋） SR235 φ6 ○ 溶接金網</div> <div>□</div> 鉄骨工事 <div>○ 工事に先立ち施工計画書を作成し、監理員の承認を得ること。 ○ 鋼 材 SS400 （アングル、間柱） ○ 高 カ ボ ル ト ○ スタッド溶接用材料 ○ 製作工場は建設省告示第1103号「溶接の高度の品質を確保し得る作業方法」に適合する鉄骨加工業者とする。 ○ 防錆塗装 素地調整 2 種 防錆塗装 JIS K 5674 2 回塗り 溶融亜鉛めっき 有 (無) g/m²</div> <div>○ 検査項目及び検査方法などは下記による他、特記無き限り日本建築学会「建築工事標準仕様書 同解説 JASS6 2015」による。 1. 工場製作に関する検査<div>・ 鉄骨加工工場の選定及び選定に伴う調査 ・ 鉄骨製作要領書及び品質管理・検査要領書等の審査 ・ 工作図等の審査 ・ 現寸検査 ・ 組立検査 ・ 鉄骨加工業者が実施した社内検査状況の確認 ・ 製品検査（寸法、精度その他の検査） ・ 溶接部の検査（外観及び超音波探傷による検査） ・ 不具合処置後の検査（外観及び超音波探傷による検査） ・ その他監理員が指定する事項</div></div> <div>2. 工事現場製作に関する検査<div>・ 建方検査（寸法、精度その他の検査） ・ 高力ボルト接合部の検査 ・ 溶接工の承認 ・ 開先状態の検査 ・ 溶接部の検査（外観及び超音波探傷による検査） ・ 不具合処置後の検査（外観及び超音波探傷による検査） ・ その他監理員が指定する事項</div></div> <div>3. 溶接部の受入検査<div>・ 検査の対象、試験方法、可否の判定、抜取検査の方法及び検査後の処置は、特記なき限り、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS6 1996 」による。 ・ 完全溶込み溶接の現場溶接部は、全数検査とする。 ・ 検査会社は第三者機関で、G1W 認定の超音波探傷検査部門 (G1) の認定を取得した事業者とする。 ・ 検査技術者は 「NDI UT 2 種又は3 種」の有資格者とする。</div></div> <div>○ 電炉鋼材を使用する場合は、監理員の承認を得ること。</div>					<div>・ あと施工アンカーは、仕上げモルタルを撤去し、柱・梁の躯体鉄筋コンクリート部分に打つ事。1 階床については、基礎梁上端から所要のアンカー埋め込み長さ確保する事。</div> <div>・ ドリリングを行う前に部材幅方向に溝はつり（端部・中央2ヶ所程度）を行い、既存鉄筋・埋設管の位置を確認する事。なお、溝はつりの他に、鉄筋探知機などによってもよい。</div> <div>・ アンカー筋は必ず埋め込み深さのマーキングをする事。</div> <div>・ 上向きで施工する場合には、薬液の流出防止、アンカー筋の脱落防止の処置を講ずる事。</div> <div>・ 作業途中で中止した穴については、樹脂モルタル等により、穴埋め補修をする事。</div> <div>○ 検査<div>・ 外観検査：目視により全数確認する事。</div><div>・ 打音確認検査：ハンマーにより金属音を全数確認する事。</div></div> <div>施工確認試験 ※打音確認(全数) ※引張試験（標準仕様書 8.11.5(1)～(5)）による。 引張試験本数 各技能者が、1日に施工したものの径ごとに3本 確認強度<table><tr><th>径</th><th>確認張力 (kN)</th></tr><tr><td>D16</td><td>68.0</td></tr><tr><td>D19</td><td>99.0</td></tr><tr><td>D22</td><td>1335.0</td></tr></table></div> <div>■ グラウトモルタル工事<div>○ グラウトモルタル プレミックスタイプ無収縮モルタル<div>・ 設計強度： 36 N/mm²</div><div>・ 使用箇所： 新設壁・増打壁・開口閉塞部上部200～300</div></div><div>○ 強度管理 1日の施工に対し、φ50×100mmのテストピース3体を製作し、材令28日で圧縮試験を行い、設計強度を確認する事。</div><div>○ 調査 練り混ぜ時には、所定の使用水量を厳守する事。 コンシステンシーは、注入箇所及び注入方法に応じて定める。</div><div>○ 注入または圧入 グラウトモルタルは、注入または圧入により打ち込む。 注入または圧入に先立ち、既設コンクリート・せき板表面は十分に吸水した状態とする。 注入または圧入は、適切な圧力で中断しないように行う。 空気抜きを設け、グラウトモルタルが空気抜きに出てくることを確認する。</div><div>○ 型枠 取り外しは、グラウトモルタルが十分に硬化し、かつ型枠による膨張圧の拘束が不要になってから行う。</div><div>○ 養生 コンクリートの場合と同様に行う。</div></div>					径	確認張力 (kN)	D16	68.0	D19	99.0	D22	1335.0
	径	確認張力 (kN)																					
	D16	68.0																					
	D19	99.0																					
	D22	1335.0																					
	特記事項		architects design office KOBAYASHI SEKKEI		DATE	2 0 2 2 . 1	TITLE	松 阪 市 立 嬉 野 中 学 校 校 舎 大 規 模 改 造 工 事 （ 第 2 期 ）		NO. S-15													
					SCALE		SUBJECT	（ 本 校 舎 ） 耐 震 改 修 工 事 特 記 仕 様 書															
			株式会社 小 林 設 計 〒515-2101三重県松阪市皇合町2198-2 管理建築士第198323号 PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667 知事登録 第1-1556号 小 林 康 弘																				

鉄筋コンクリート壁補強要領図

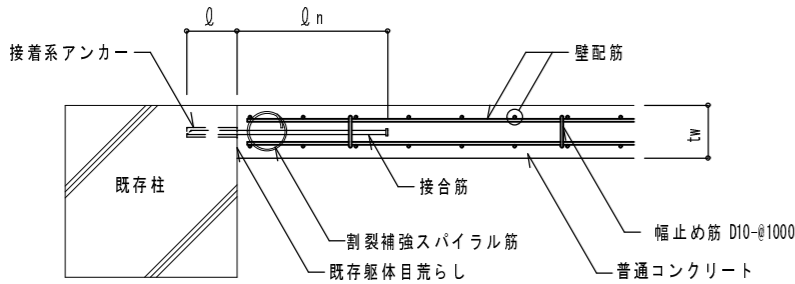
増設壁補強配筋納まり標準詳細 1



割裂補強筋の標準ピッチ

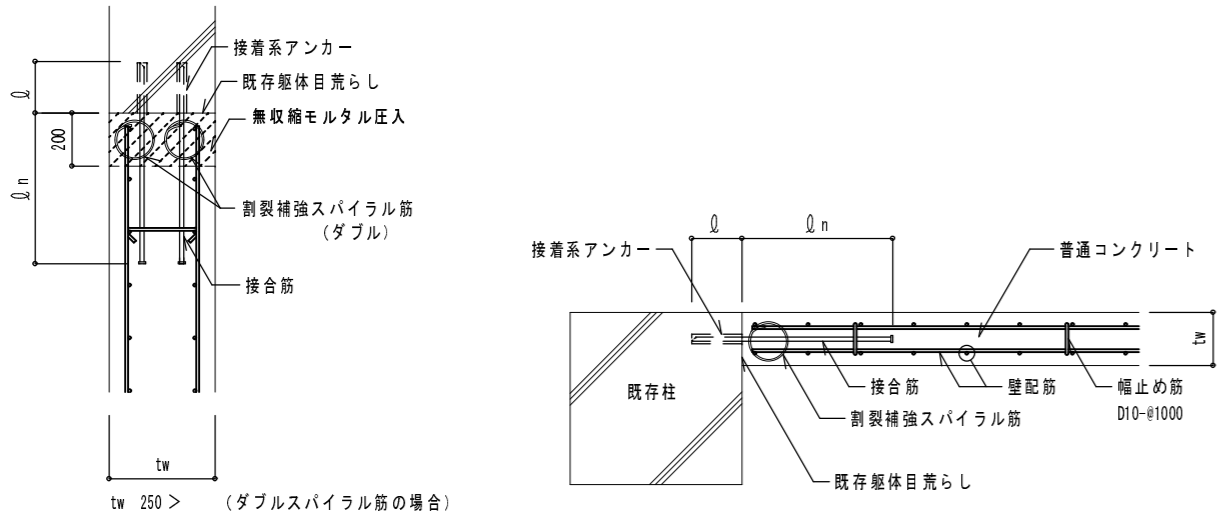
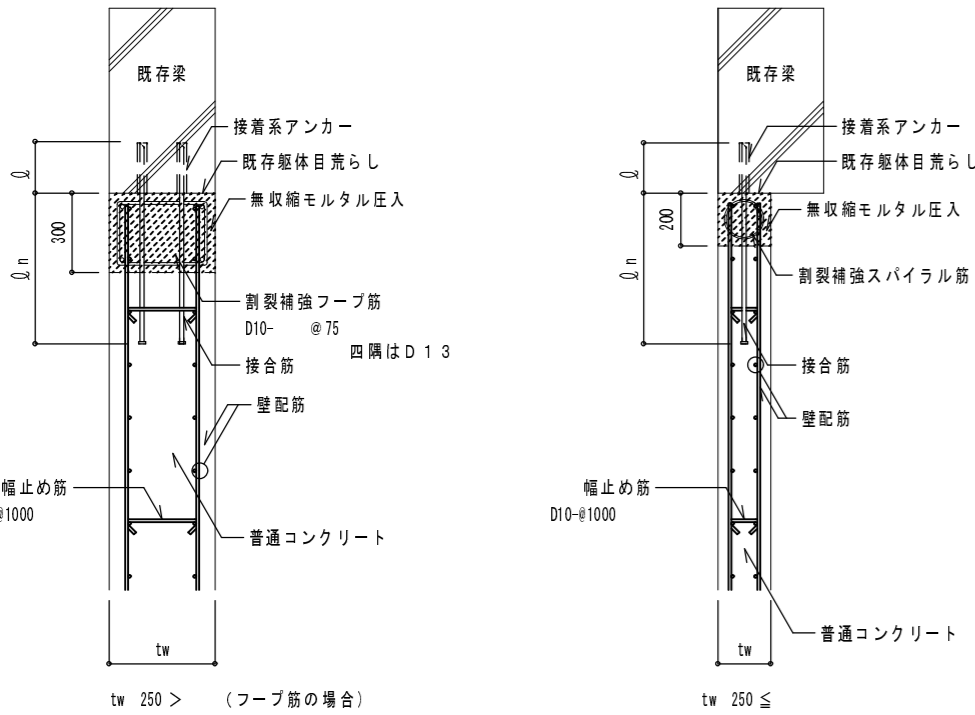
- ・スパイラル筋
40mm～60mmかつアンカーピッチの1/6～1/3
- ・フープ筋
アンカーピッチの1/3～1/2

スパイラル筋の重ね長さは1.5巻き以上とする。

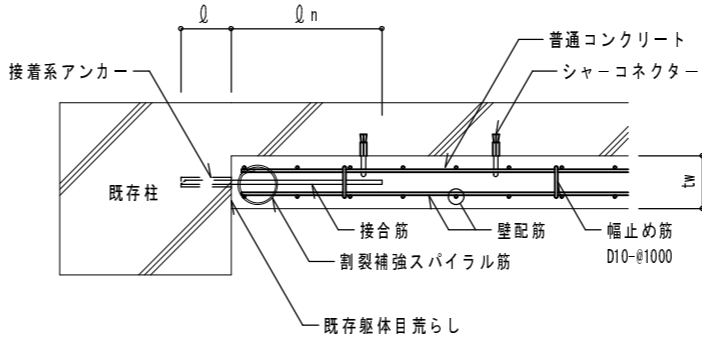
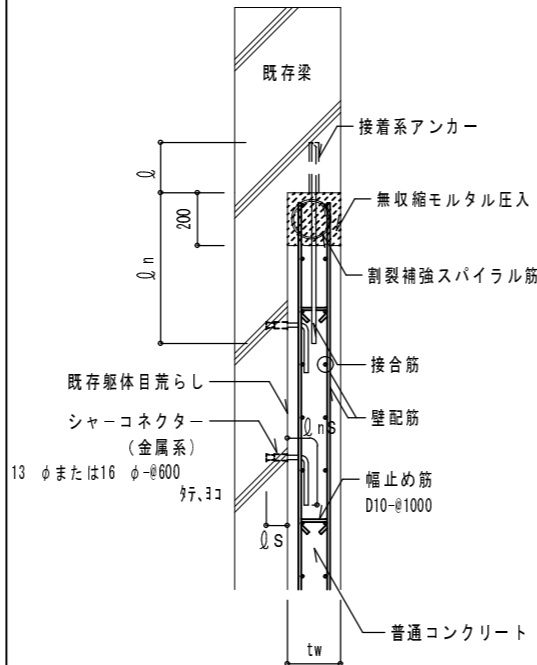


増設壁補強配筋納まり標準詳細 2

注) 既存コンクリート面には深さ5mm～10mm程度の目荒らしを縦横100@mm/m目処に施す。



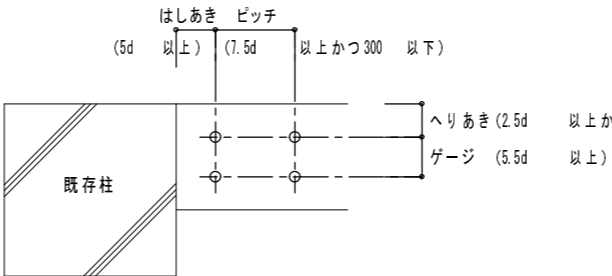
増設壁補強配筋納まり標準詳細 3



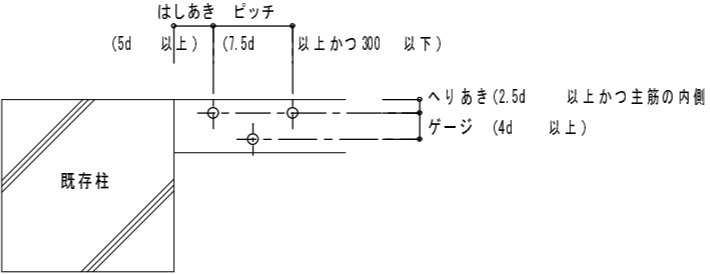
シャコネクターと巾止め筋の兼用は可とする。

あと施工アンカーの間隔

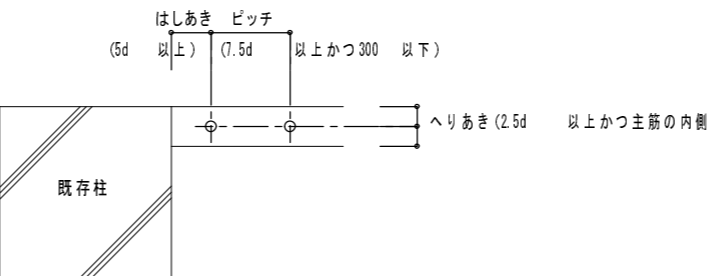
(1) ダブル配置



(2) 千鳥状配置

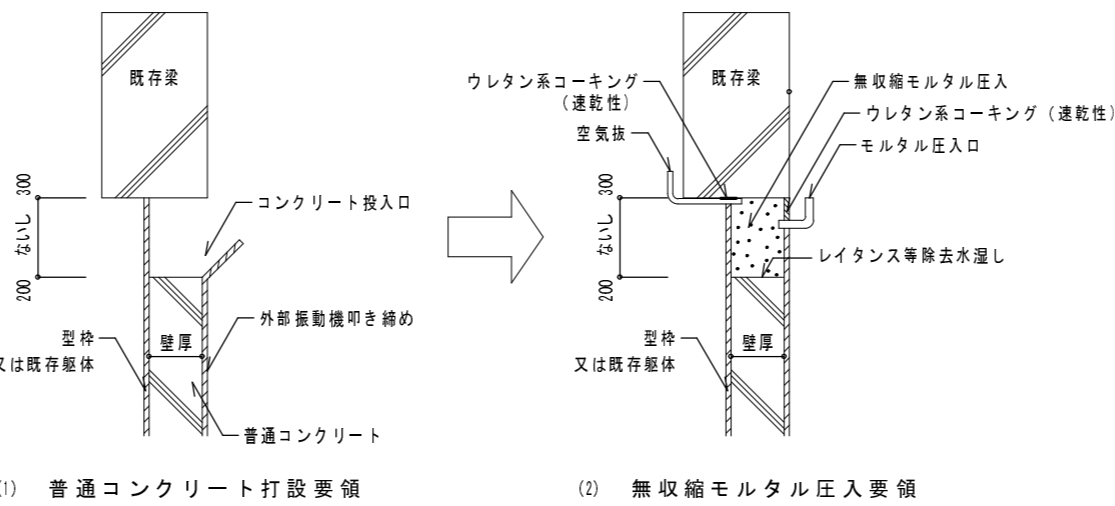


(3) シングル配置



コンクリート及びモルタル圧入要領

(1) による普通コンクリート施工後、(2) により無収縮モルタルを圧入する。



アンカーの定着長さ

接合筋	D16	<接着系>
Q	10d (160)	
Qn	40d (640)	頭無し
	20d (320)	頭付き

シャコネクター	13	φ <金属系>
Q S	4d (80)	
Q nS	200	頭無し
		接合鉄筋 D10

接合筋	D19	<接着系>
Q	10d (190)	
Qn	40d (760)	頭無し
	20d (380)	頭付き

シャコネクター	16	φ <金属系>
Q S	4d (70)	
Q nS	250	頭無し
		接合鉄筋 D13

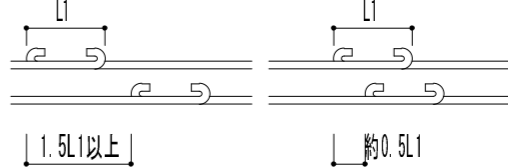
接合筋	D22	<接着系>
Q	10d (220)	
Qn	40d (880)	頭無し
	20d (440)	頭付き

接合筋	D25	<接着系>
Q	8d (200)	
Qn	40d (1000)	頭無し
	20d (500)	頭付き

- ・特記なき限りアンカーは頭付きとする。
- ・開口補強筋の場合など引き抜き時の鉄筋降伏を保証する時は L=12 とする。

鉄筋の定着及び重ね継手長さ

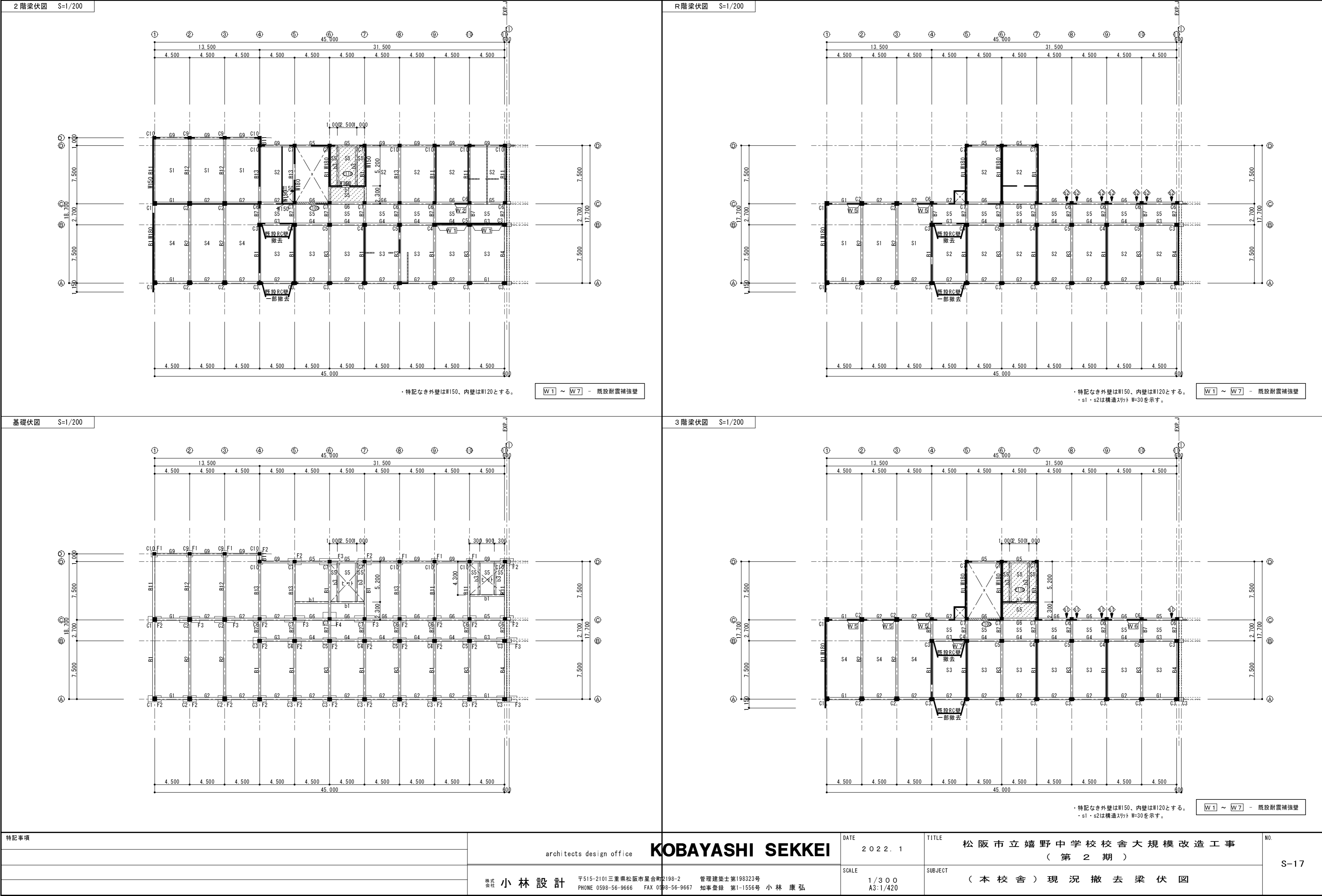
重ね継手(下図のいずれかとする)

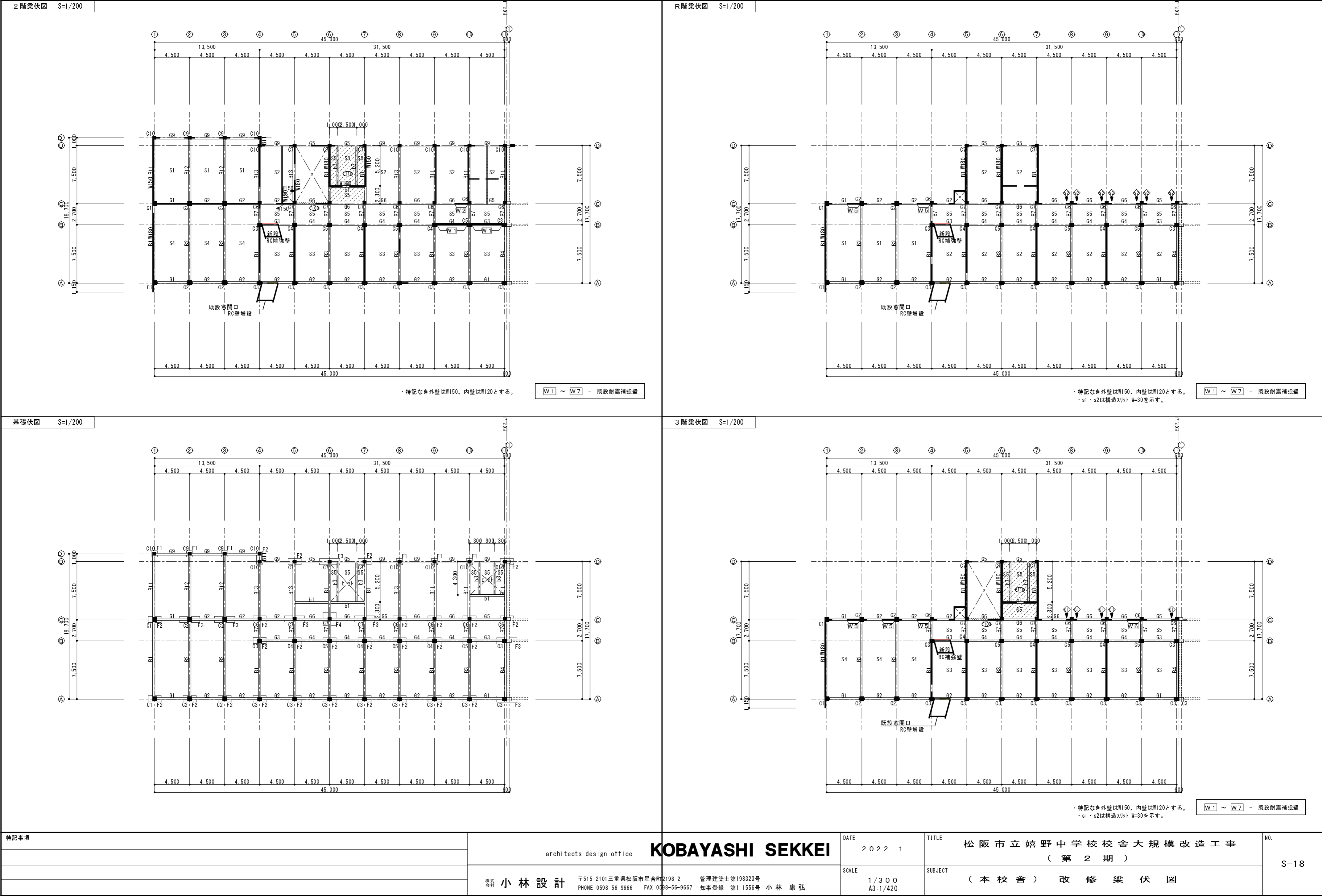


鉄筋の種類	普通、軽量コン クリートの設計 基準強度の範囲 (N/mm2)	定 着 の 長 さ			特別の定着及び 重ね継手の長さ (L1)
		一般 (L2)	下筋 (L3)		
			小 梁	スラブ	
SD295A SD295B SD345	21~27	40d または 25d フックつき	25d または 15d フック つき	10d かつ 15cm以上	40d または 30d フックつき
	30~45	40d または 20d フックつき			40d または 25d フックつき
SD390	21~27	40d または 30dフックつき	25d または 15d フック つき	10d かつ 15cm以上	45d または 35d フックつき
	30~45	40d または 25d フックつき			40d または 30d フックつき

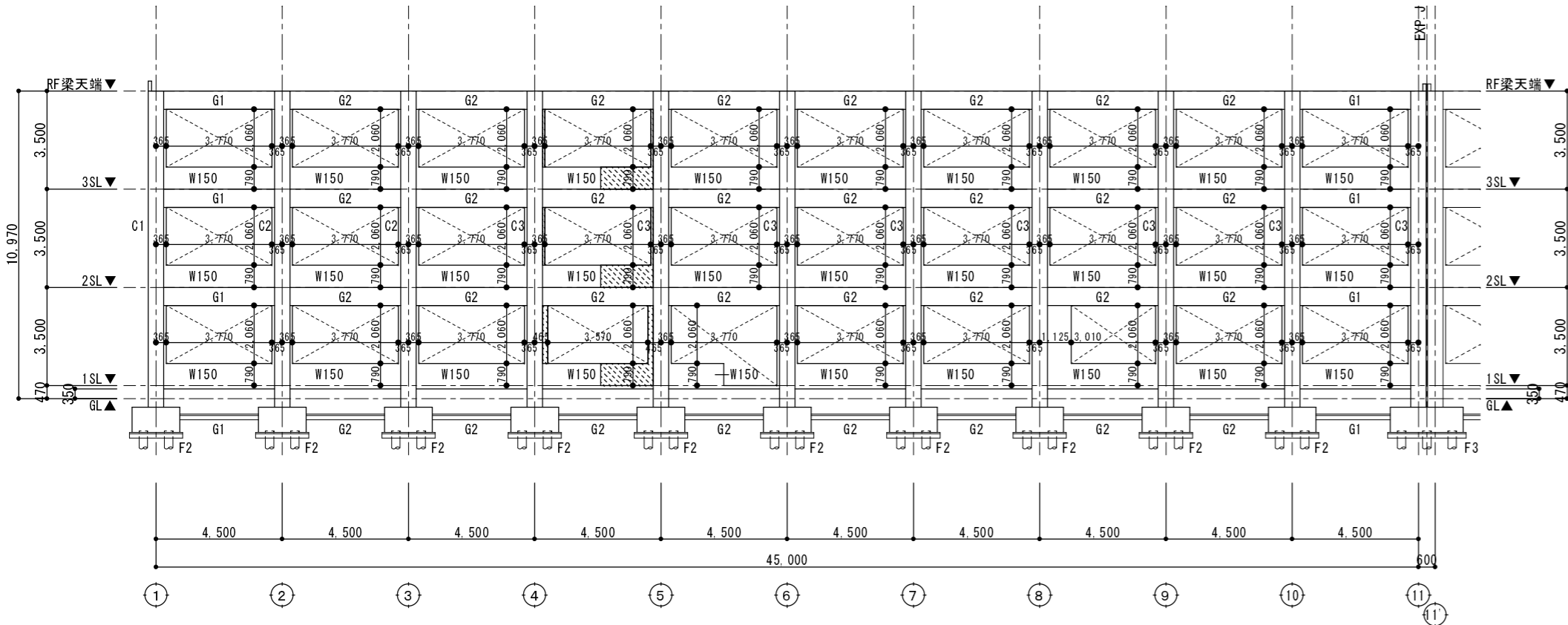
かぶり厚さ(単位: mm)

部位		設計かぶり厚さ(mm)	最小かぶり厚さ(mm)
土に接しない部分	屋根スラブ 既スラブ 非耐力壁	屋内 30 屋外 40	20 30 (20)
	はり 柱 耐力壁	屋内 40 屋外 50	30 40 (30)
	擁 壁	40	30
	柱・はり・スラブ・耐力壁	50	40
	基 礎 ・ 擁 壁	70	60
土に接する部分			



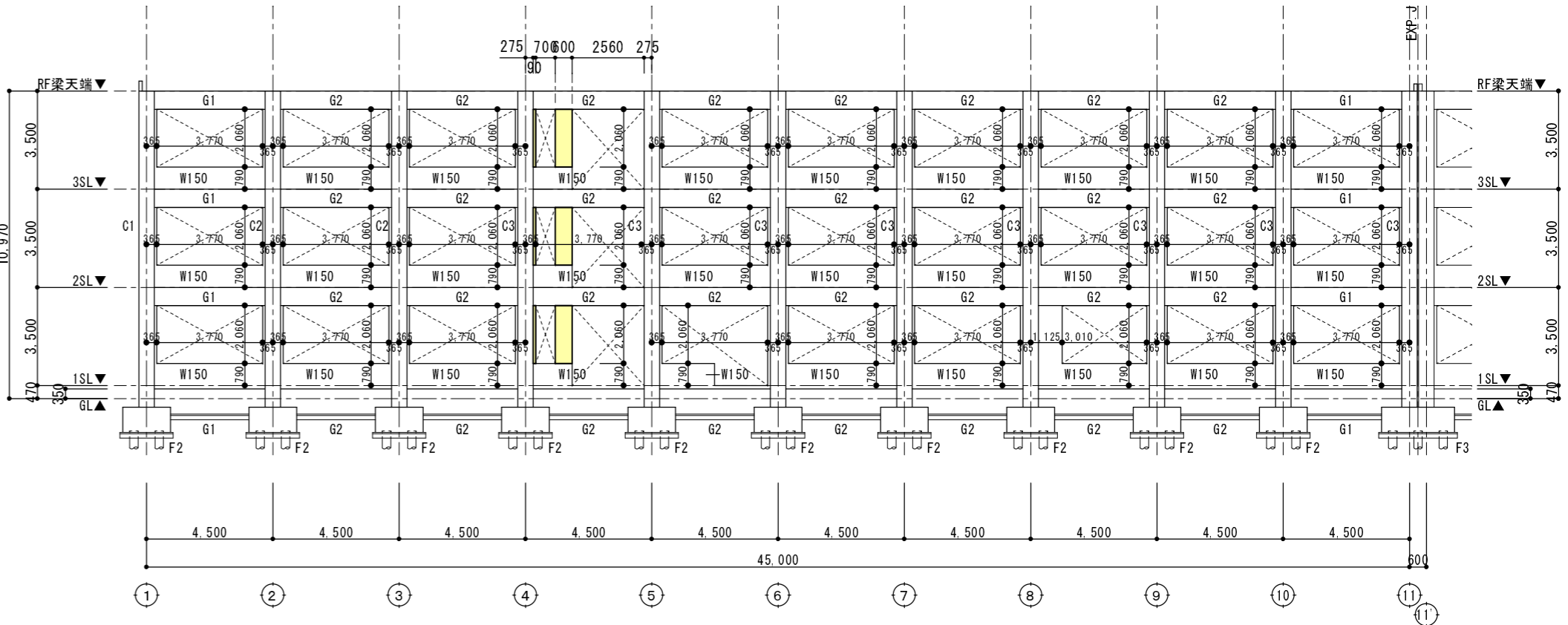


A通り 現況撤去軸組図 S=1/200



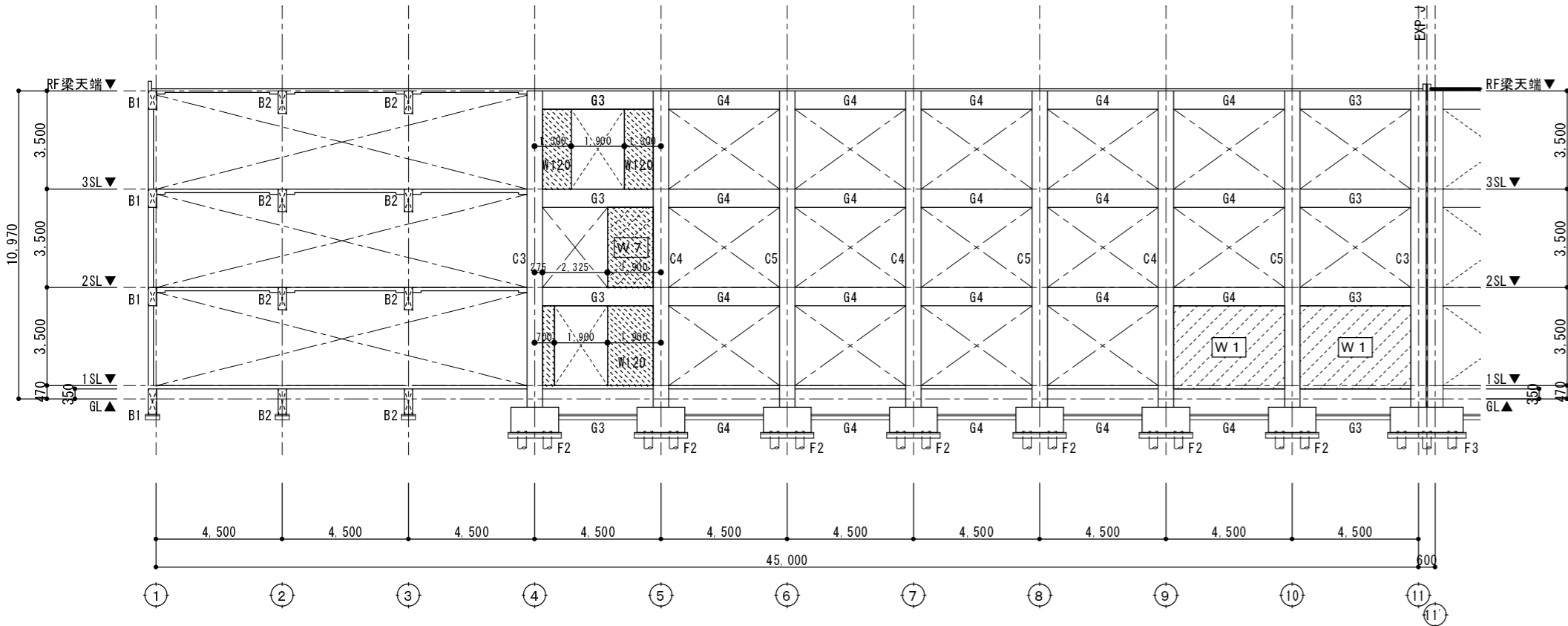
既設耐震補強壁
既設RC壁 撤去

A通り 改修軸組図 S=1/200



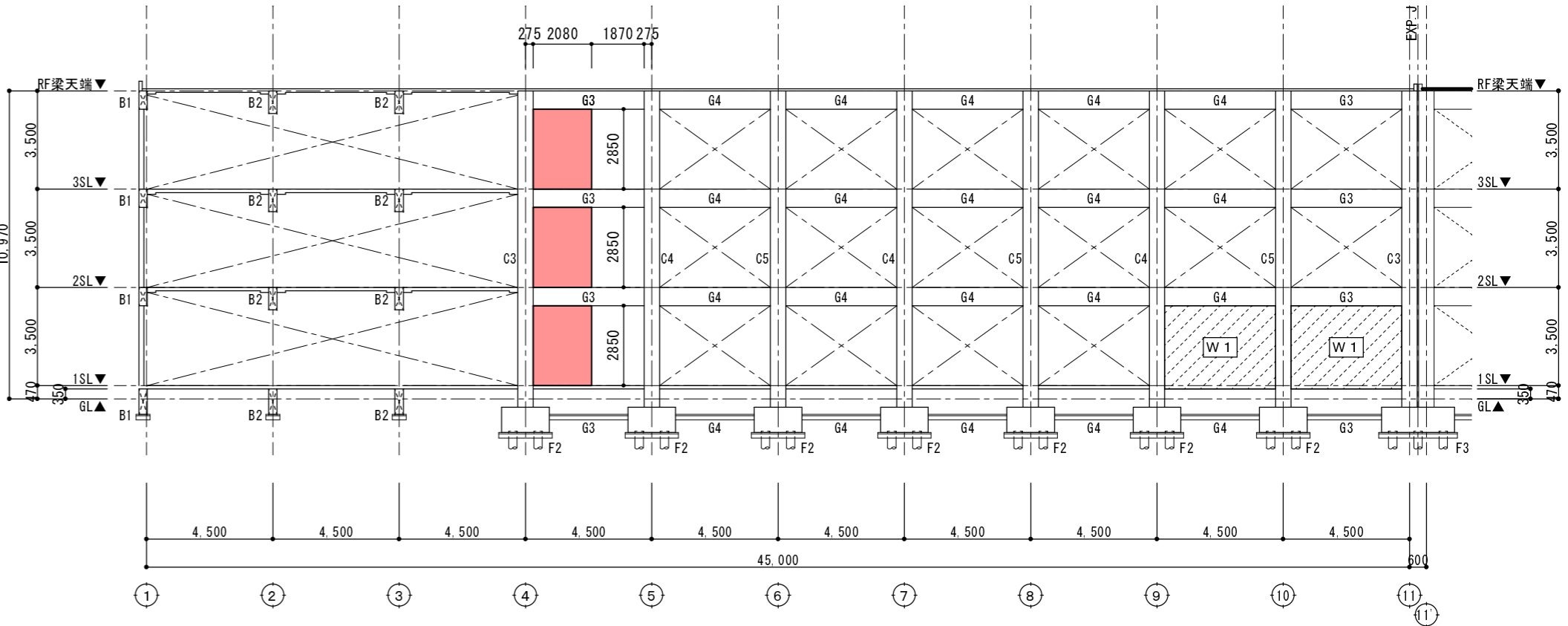
既設耐震補強壁
既設窓開口 RC壁増設

B通り 現況撤去軸組図 S=1/200



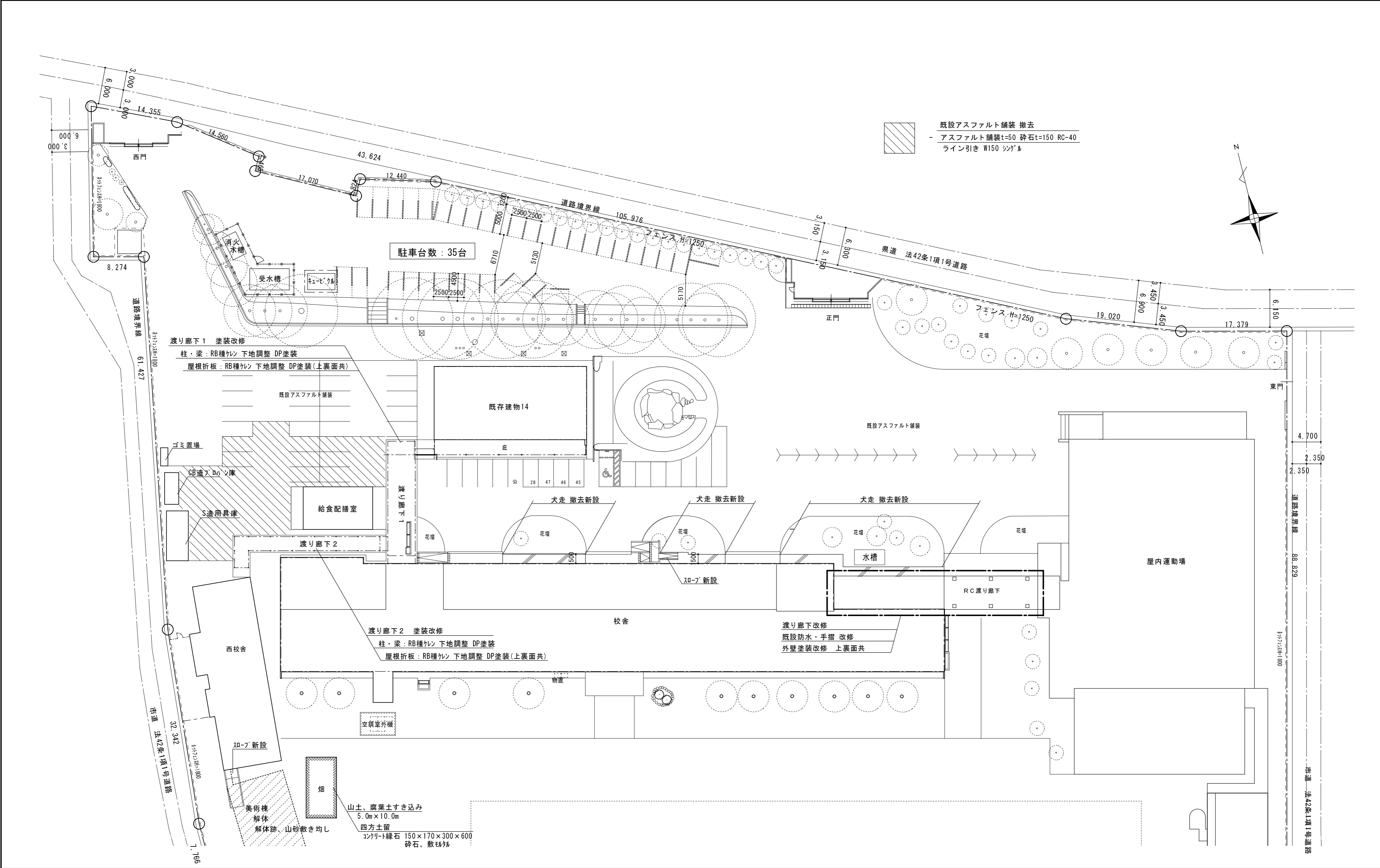
既設耐震補強壁
既設RC壁 撤去

B通り 改修軸組図 S=1/200

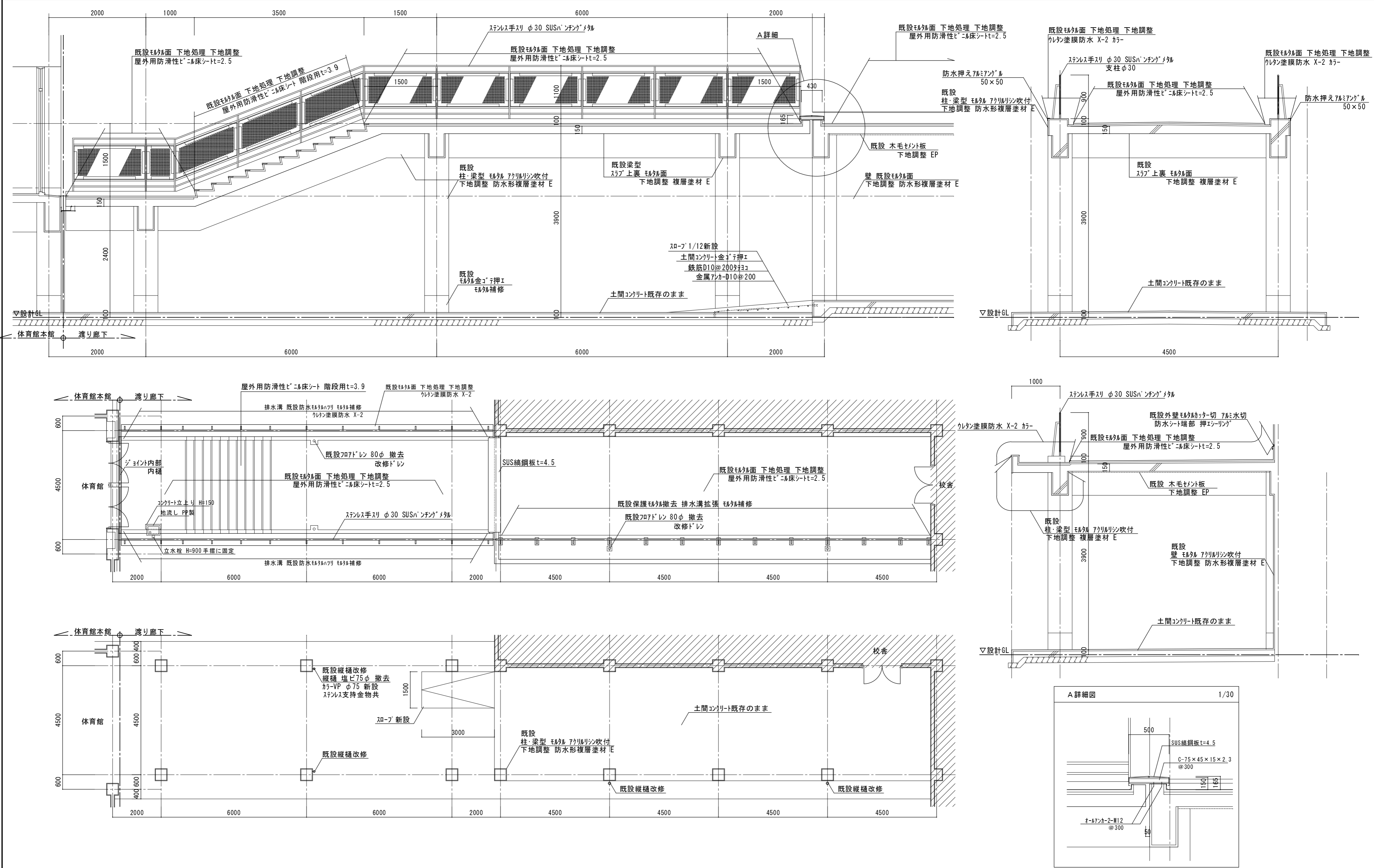


既設耐震補強壁
RC補強壁 新設

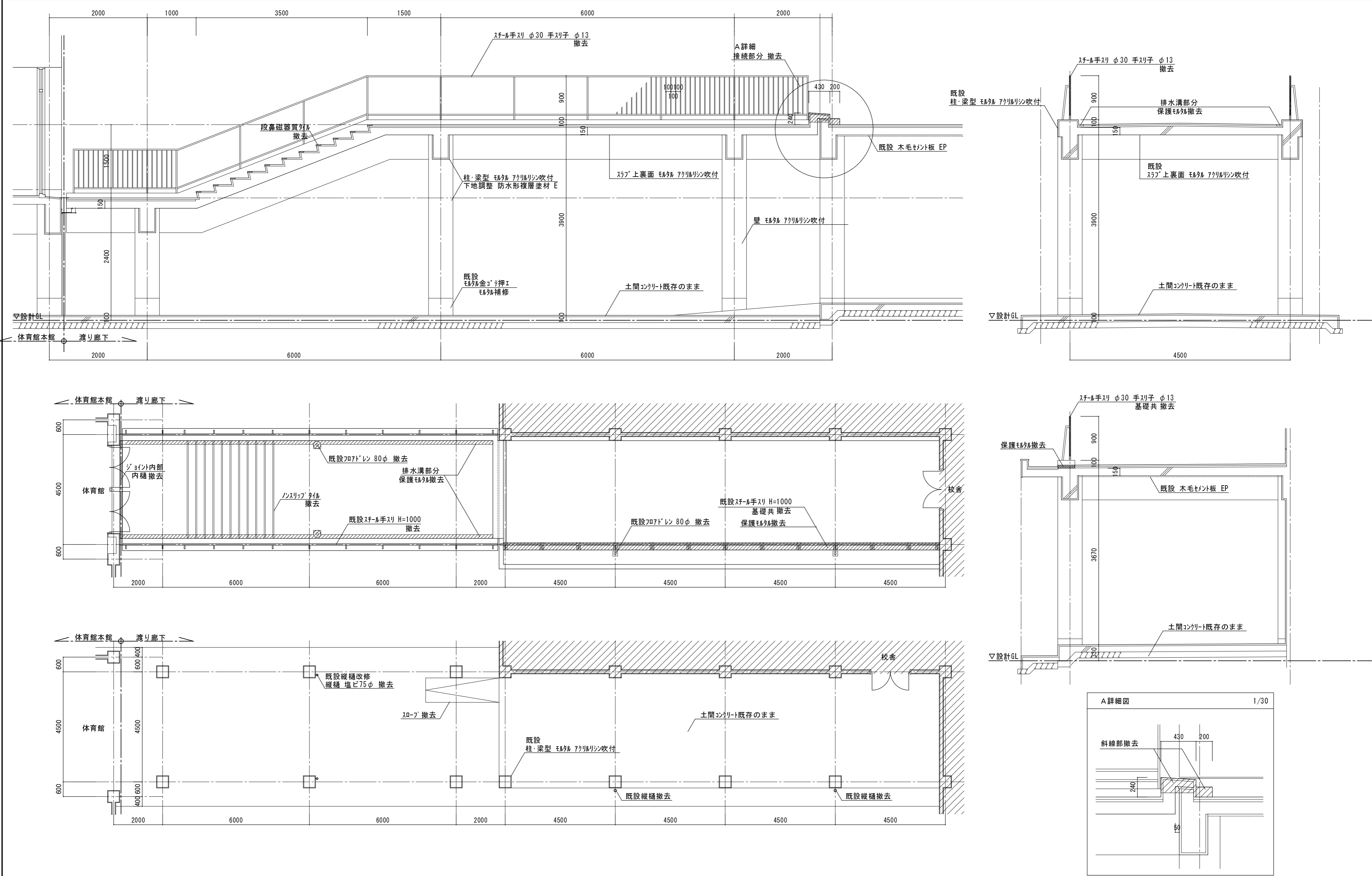
特記事項	architects design office KOBAYASHI SEKKEI			DATE	2022. 1	TITLE	松阪市立嬉野中学校校舎大規模改造工事 (第 2 期)	NO. S-19
	株式会社 小 林 設 計 〒515-2101三重県松阪市星合町2198-2 PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667 管理建築士第198323号 知事登録 第1-1556号 小林 康 弘			SCALE	1/200 A3:1/281	SUBJECT	(本 校 舎) 軸 組 図	



特記事項	architects design office KOBAYASHI SEKKEI		DATE	2 0 2 2 . 1	TITLE	松 阪 市 立 嬉 野 中 学 校 校 舎 大 規 模 改 造 工 事 (第 2 期)	NO. G-01
			SCALE	1 / 4 0 0 A3:1/563	SUBJECT	改 修 外 構 図	
	株式会社 小 林 設 計	〒515-2101 三重県松阪市皇合町2198-2 PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667	管理建築士第198323号 知事登録 第1-1556号 小 林 康 弘				



特記事項	architects design office KOBAYASHI SEKKEI			DATE	2 0 2 2 . 1	TITLE	松 阪 市 立 嬉 野 中 学 校 校 舎 大 規 模 改 造 工 事 (第 2 期)	NO. G-02
				SCALE	1/100 1/50	SUBJECT	渡 り 廊 下 屋 上 防 水 ・ 外 壁 改 修 平 面 図 立 面 図	
	株式会社 設 計 小 林 設 計	〒515-2101 三重県松阪市星合町2198-2 PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667	管理建築士第198323号 知事登録 第1-1556号 小林 康弘					



特記事項	architects design office KOBAYASHI SEKKEI		DATE 2022.1	TITLE 松阪市立嬉野中学校校舎大規模改造工事 (第2期)	NO. G-03
	株式会社 小林設計	〒515-2101三重県松阪市星合町2198-2 PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667	管理建築士第198323号 知事登録 第1-1556号 小林 康弘	SCALE 1/100 1/50	SUBJECT 渡り廊下屋上防水・外壁改修 現況撤去平面図 立面図

4

建設廃棄物の処理

①

解体材の活用等

解体材	再資源化施設
コンクリート	再資源化施設
コンクリート及び鉄から成る建設資材	再資源化施設
木材	再資源化施設
コンクリート・アスファルト	再資源化施設
金物	リサイクル業者
不燃材	産業廃棄物処理施設

注）解体材の処理に当たっては「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」「建設副産物適正処理推進要綱（平成14年）」を遵守して行わなければならない。

②

現場における保管

建設廃棄物が工事現場から搬出されるまでの間、周辺の生活環境に影響を及ぼさないよう、分別した種類ごとに適切に保管しなければならない。

③

運搬及び処理の委託

建設廃棄物の処理を委託する場合には、廃棄物の処理法により、委託先ごとに個別に書面で行う。

運搬及び処分を委託した場合は、建設廃棄物の処理の状況に関する確認を行ったうえで、最終処分までの処理が適正に行われるための必要な措置を講ずるものとする。

廃棄物の運搬の委託先は、廃棄物処理法で定める事業許可のある産業廃棄物収集運搬業者とする。なお、運搬途中で精替え保管を行う場合は、当該廃棄物の精替え及び保管の事業許可を確認する。

廃棄物の処分の委託先は、廃棄物処理法で定める事業許可のある産業廃棄物処分業者とする。

建設廃棄物の運搬に当たっては、廃棄物が飛散又は流出しないよう適切な構造の運搬車両を使用しなければならない。

運搬経路の設定に当たっては、事前に経路付近の状況を確認し、必要に応じて関係機関と打ち合わせを行い、騒音、振動、粉塵等の防止に努めるとともに運搬時の道路交通状況を把握し、安全な運搬の措置を講じなければならない。

④

処分

建設廃棄物のうち再資源化するもの以外のものについては、その種類に応じて、原則として、廃棄物の処理及び清掃に関する法律に定める安定型処分場、管理型最終処分場又は選別型最終処分場において埋設処分しなければならない。

⑤

処理に注意を要する建設廃棄物

最終処分とする場合は、最終処分場の受入条件を確認のうえ適切に処分を行うこと。

再資源化とする場合は、再資源化施設の受入条件を確認のうえ適切に分別したのち、再資源化施設で再資源化する。

5

特別管理産業廃棄物の処理

①

施工計画調査

特別管理産業廃棄物等の分析調査は、次による。なお、廃石棉等の処理は、6章「アスベスト含有建材の除去等」による。

・PCBを含む機器類

変圧器、コンデンサ及び蛍光灯器具の安定器等について製造番号等から機器製造所に確認を行う。

・PCB含有シーリング材

・第一次判定

現場にてサンプルを採取し、シーリング材種及び分析の要否の判定を行う。

採取箇所数（計箇所）

採取場所（※図示）

・第二次判定

専門分析機関にてPCB含有量の分析を行う。

採取部数（計部）

採取場所（※図示）

②

特別管理産業廃棄物の処分等

PCBを含む機器類

PCBの飛散、流失等がないように適切な容器に収め保管する。

保管場所：同一敷地内敷地外（市役所裏保管庫）

運搬方法：※PCB運搬許可業者※施工業者（施設管理者を同乗させる）

PCB含有シーリング材

撤去工法：「標準施工要領書（日本シーリング工業協同組合連合会／日本シーリング材工業会）」による。

除去範囲：（※図示）

保管場所：同一敷地内敷地外（市役所裏保管庫）

運搬方法：※PCB運搬許可業者※施工業者（施設管理者を同乗させる）

6

アスベスト含有建材の除去及び処理

①

施工調査

行う行わない（6.1.3）

調査事項

※アスベストの使用部位※アスベスト層の厚さ※施工範囲・数量

※更衣室等の仮設計画※処理物の搬出方法（）

石棉障害予防規則における成型板等の飛散しにくい建材の解体に係る関係条項で、建築物又は工作物の解体、破砕等の作業を行うときは、あらかじめ当該建築物又は、工作物について、石棉等の使用の有無を目視、設計図書等により調査すること。

調査の結果、石棉等の使用の有無が疑わしいものがある場合は、監督職員と対応を協議するものとする。

石棉等が使用されている建築物又は工作物の解体等の作業を行うときは、あらかじめ作業計画を定め、かつ当該作業計画により作業を行う。

アスベスト含有吹付け材の使用時期の目安	
アスベスト含有建築材料一般名	使用時期の目安
吹付けアスベスト	～昭和50年
アスベスト含有吹付けロックウール（乾式）	～昭和50年
	～昭和55年
アスベスト含有吹付けロックウール（湿式）	～昭和63年
アスベスト含有吹付けパーミキュライト（ひる石）	不明
アスベスト含有吹付けバーライト	不明

注）建築材料の確認に当たっては「建設業労働災害防止協会 平成21年」などにて確認を行うこと。

アスベスト含有保温材等の使用時期の目安	
アスベスト含有建築材料一般名	使用時期の目安
アスベスト含有保温材	～昭和55年
けいそう土保温材	～昭和49年
バーライト保温材	～昭和55年
けい酸カルシウム保温材	～昭和55年
水練り保温材	～昭和63年
アスベスト含有耐火被覆板	～昭和58年
被覆板	けい酸カルシウム板第二種～平成3年
アスベスト含有断熱材	屋根折版用断熱材～昭和57年
	煙突断熱材～昭和62年

注）建築材料の確認に当たっては、国土交通省／経済産業省「石棉（アスベスト）含有建材データベース」などにて確認を行うこと。

代表的なアスベスト含有成型板の使用時期の目安	
アスベスト含有建築材料一般名	使用時期の目安
アスベスト含有スレート波板	～平成16年
アスベスト含有スレートボード	～平成16年
アスベスト含有けい酸カルシウム板第1種	～平成14年
アスベスト含有押出成型板	～平成16年
アスベスト含有バルブセメント板	～平成16年
アスベスト含有スラグセッコウ板	～平成16年
アスベスト含有サイディング	～平成16年
アスベスト含有住宅屋根用化粧スレート	～平成16年
アスベスト含有ロックウール吸音天井板	～昭和62年
アスベスト含有石膏ボード	～昭和61年
アスベスト含有セメント円筒	～平成16年
アスベスト含有フリーアクセスフロア	～昭和63年
アスベスト含有ビニル床タイル	～昭和63年

注）建築材料の確認に当たっては、国土交通省／経済産業省「石棉（アスベスト）含有建材データベース」などにて確認を行うこと。

2

粉じん濃度測定

行う行わない（6.1.4）

①

専門工事業者

工事に着手する前に、工事に相応した技術を有することを証明する資料を、監督職員（6.2.1）に提出すること。

③

アスベスト含有吹付け材及びアスベスト含有保温材等の除去

適用箇所※図示（）

除去工法は解体共通仕様書及び関係法令等による

※アスベスト含有吹付け材の除去にあたっては、（財）日本建築センターの「建設（6.3.2）技術審査証明事業（建築技術）」による「吹付けアスベスト粉塵飛散防止処理技術（6.4.3）」の審査証明書を取得している工法とすること。

その他（）

※密封処理（二重袋梱包）セメント固化（6.3.3）（6.4.4）

5

吹付け材等の除去物の処理

適用箇所※図面及び仕上表等による（屋根：カラーベスト天井：ジブトン軒天：大平板床：Pタイル）

※含有が疑わしい場合は、アスベスト含有材とみなす。

作業条件※散水等による湿潤化※手ばらし※保護具、保護衣

④

アスベスト含有成型板の除去

適用箇所※図面及び仕上表等による（屋根：カラーベスト天井：ジブトン軒天：大平板床：Pタイル）

※含有が疑わしい場合は、アスベスト含有材とみなす。

作業条件※散水等による湿潤化※手ばらし※保護具、保護衣

7

特殊な建設副産物の回収及び処分

①

施工調査

特殊な建設副産物の使用状況について、設計図書及び目視により製造所名、製造年、（7.1.3）型式、種類、数量等を調査する。

②

特殊な建設副産物の回収及び処分

運搬、回収及び処分の委託先は、関係法令等の規定に従い、委託先ごとに行う。（7.3.1）

※フロン

冷暖房機、冷蔵庫、冷凍庫の冷媒は、関係法令に従い登録回収業者に回収を委託し、フロン類破壊業者により破壊又は再生利用し、解体証明書を提出する。

・ハロン

ハロン消火設備の消火剤は、オゾン層保護法等関係法令に従い、ハロン消火設備設置業者に回収を委託する。

・イオン化感知器

イオン化感知器は、製造業者に引き渡す。

・六ふっ化硫黄ガス

ガス絶縁開閉器、ガス絶縁変圧器等、受変電機器に含まれる六ふっ化硫黄ガスは、製造業者に回収を委託する。

・PFOs（ペルフルオロ（オクタンー1スルホン酸））

PFOsを含む消火剤等は、廃棄物処理法に従い、処理業者に処理を委託する。

・特定化学物質

特定化学物質は、特定化学物質障害予防規則等関係法令に従い回収又は処分する。

・その他の特殊な建設副産物

その他の特殊な建設副産物は、関係法令に従い回収又は処分する。

特記事項

architects design office

株式会社 小林設計

KOBAYASHI SEKKEI

〒515-2101三重県松阪市里合町2198-2
PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667

管理建築士第198323号
知事登録 第1-1556号 小林 康弘

DATE

2022.1

SCALE

TITLE

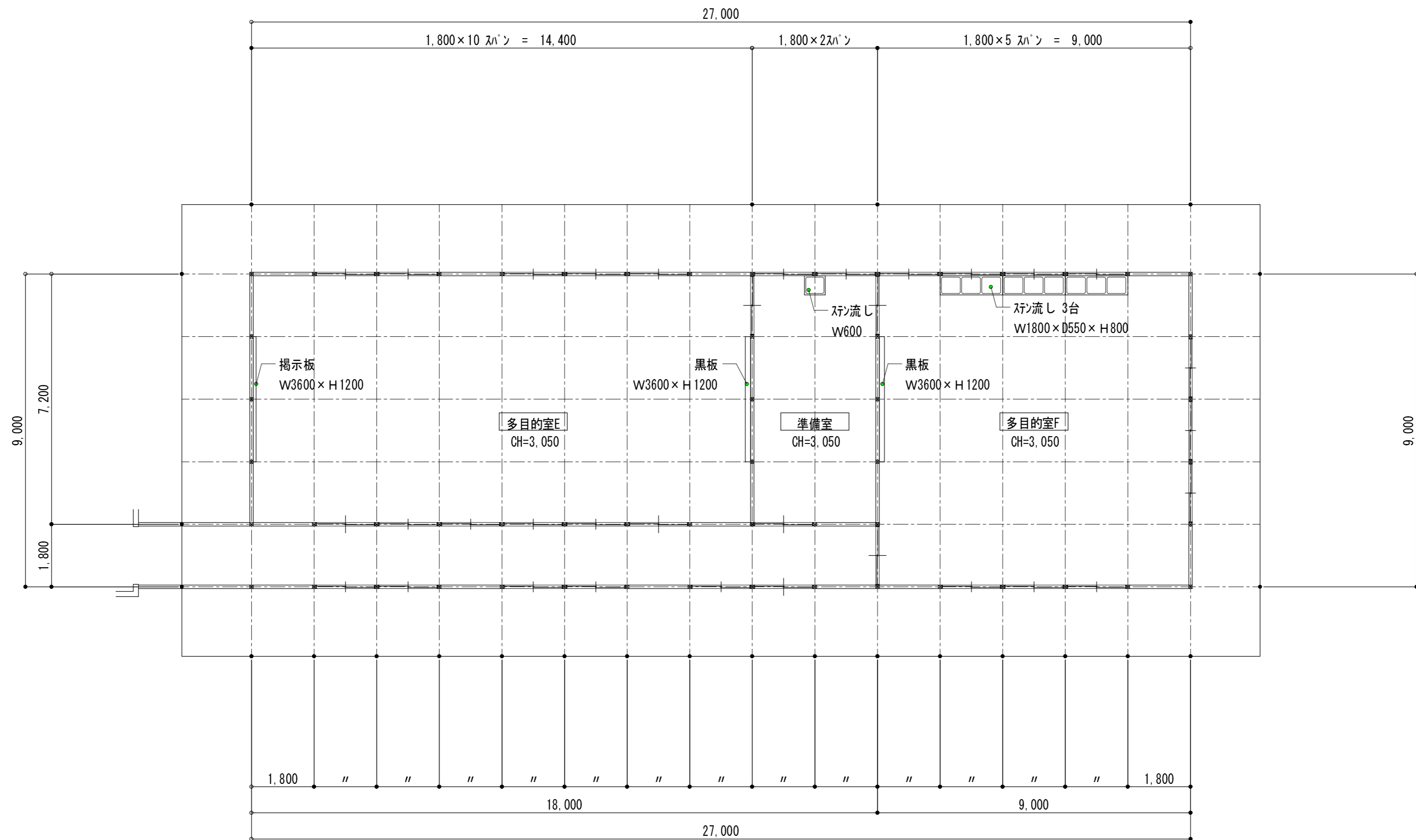
松阪市立嬉野中学校校舎大規模改造工事
（第2期）

SUBJECT

解体工事特記仕様書（2）

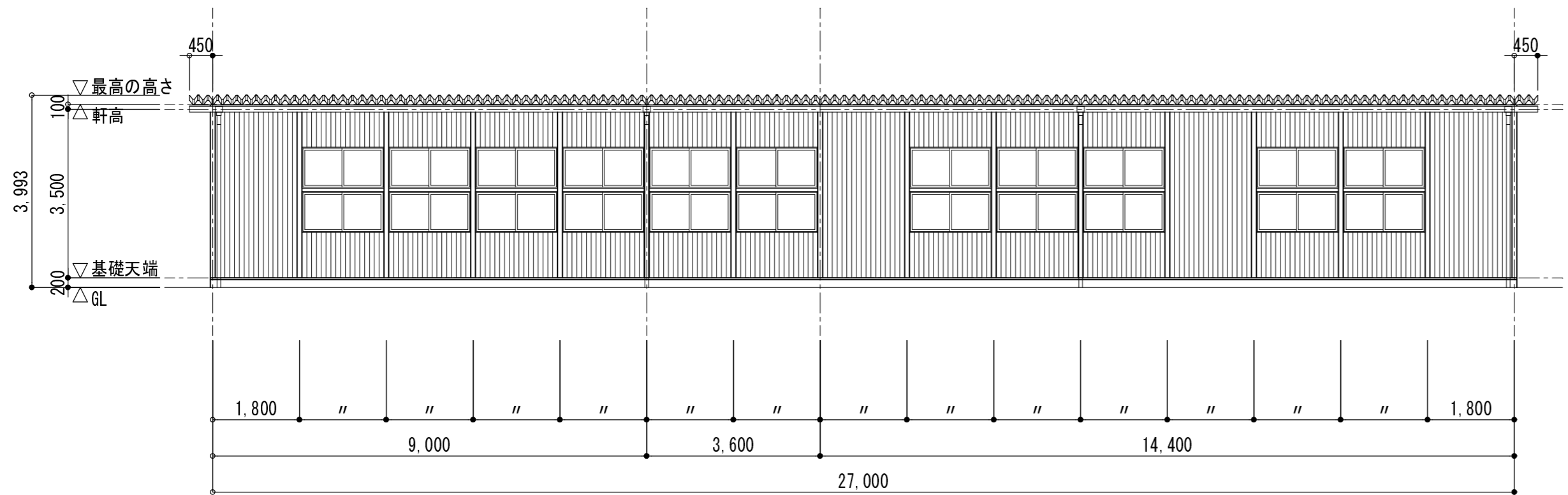
NO.

K-02

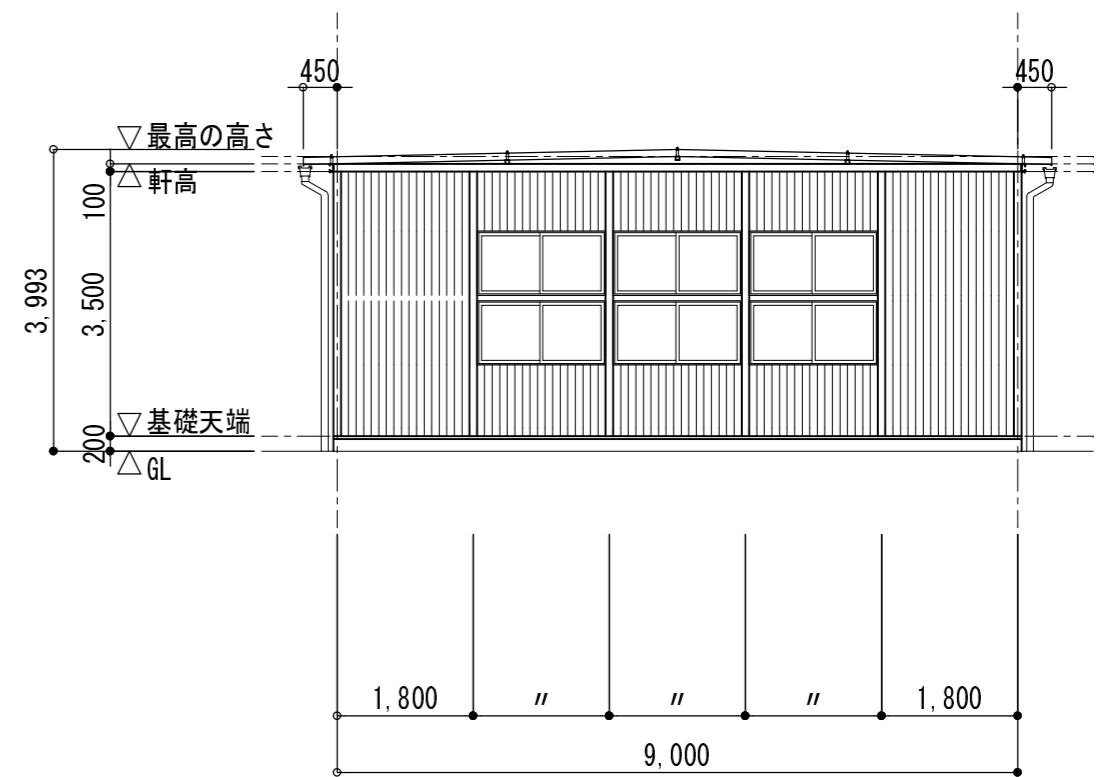


平面図

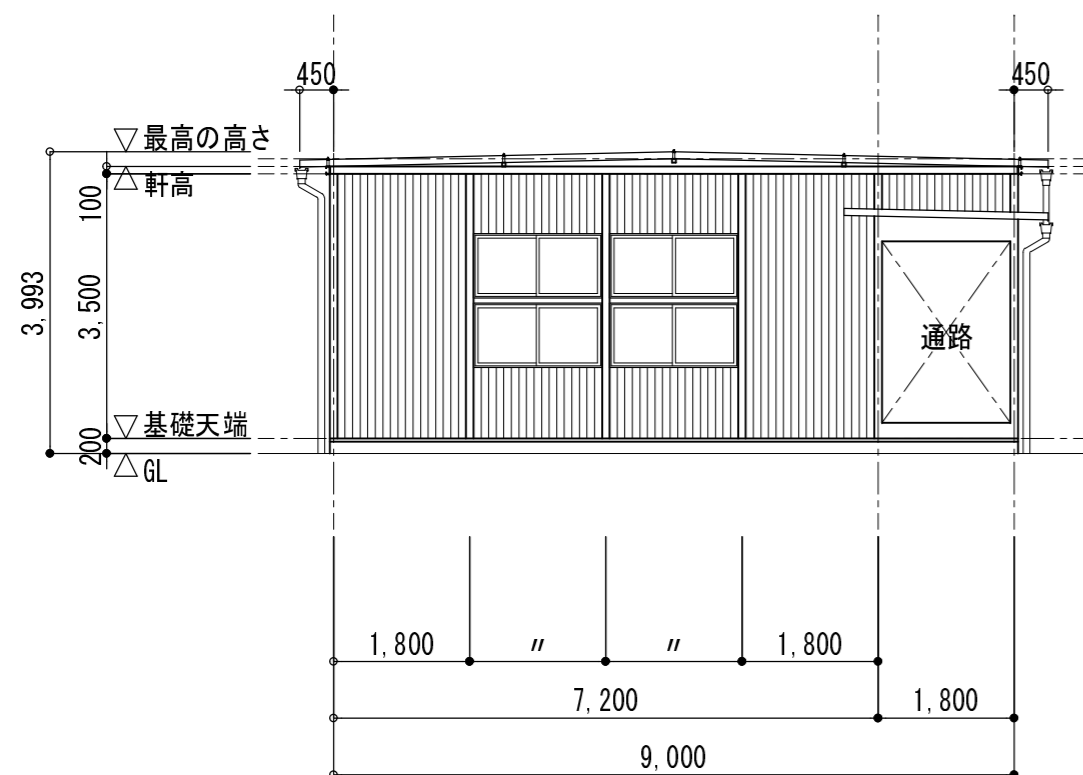
特記事項	architects design office KOBAYASHI SEKKEI	DATE 2022. 1	TITLE 松阪市立嬉野中学校校舎大規模改造工事 (第 2 期)	NO. K-03
	株式会社 小林設計	〒515-2101三重県松阪市星合町2198-2 PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667	管理建築士第198323号 知事登録 第1-1556号 小林 康弘	
		SCALE A2 : 1/100 A3 : 1/141	SUBJECT (解体工事) 美術室棟 平面図	



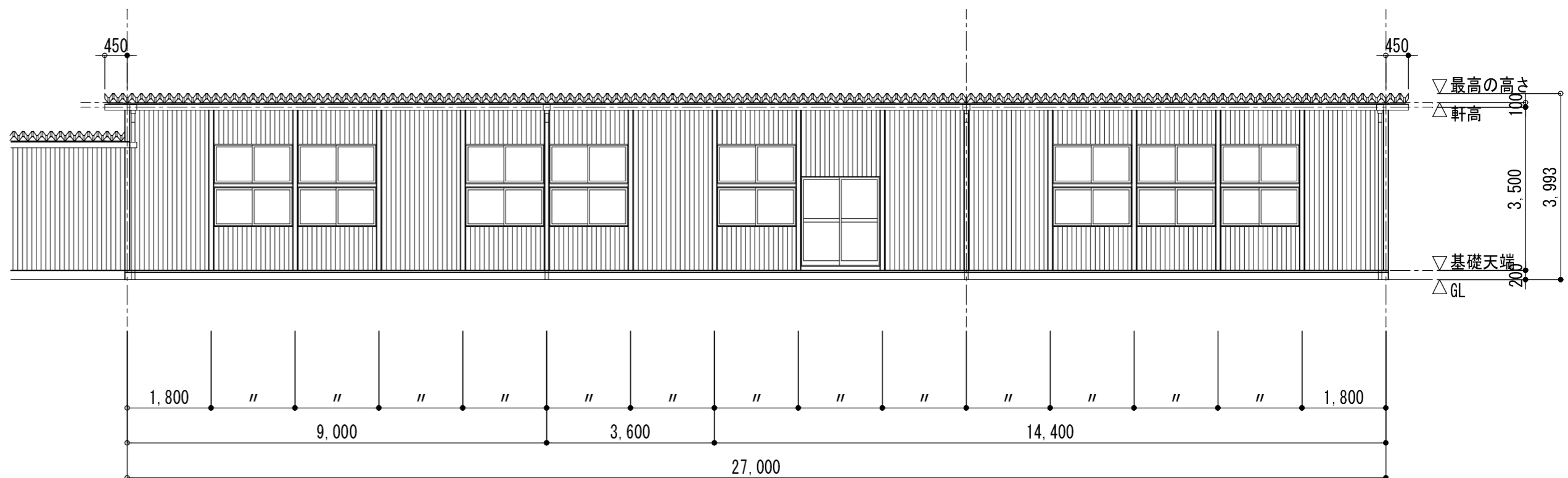
東立面図



南立面図

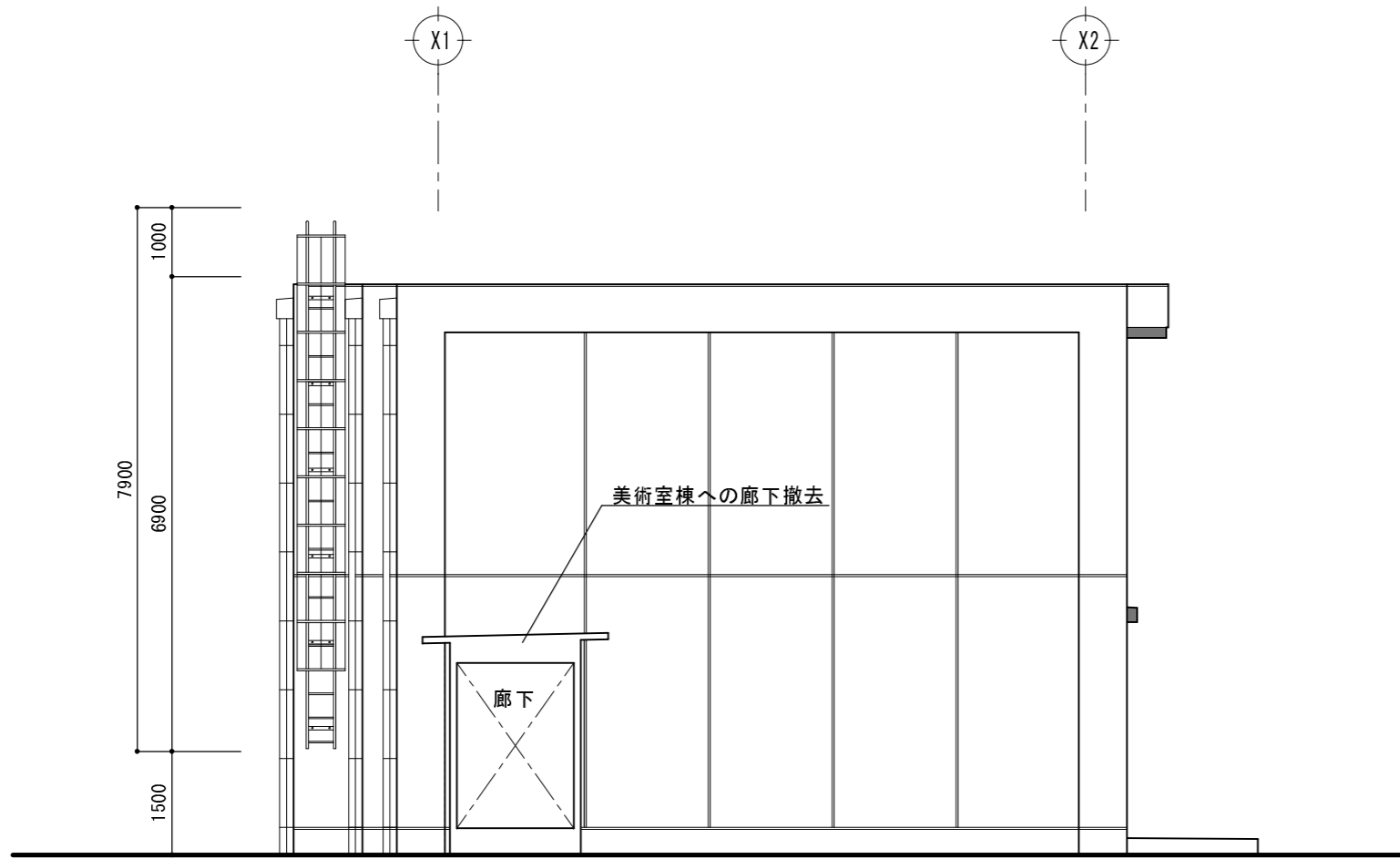


北立面図



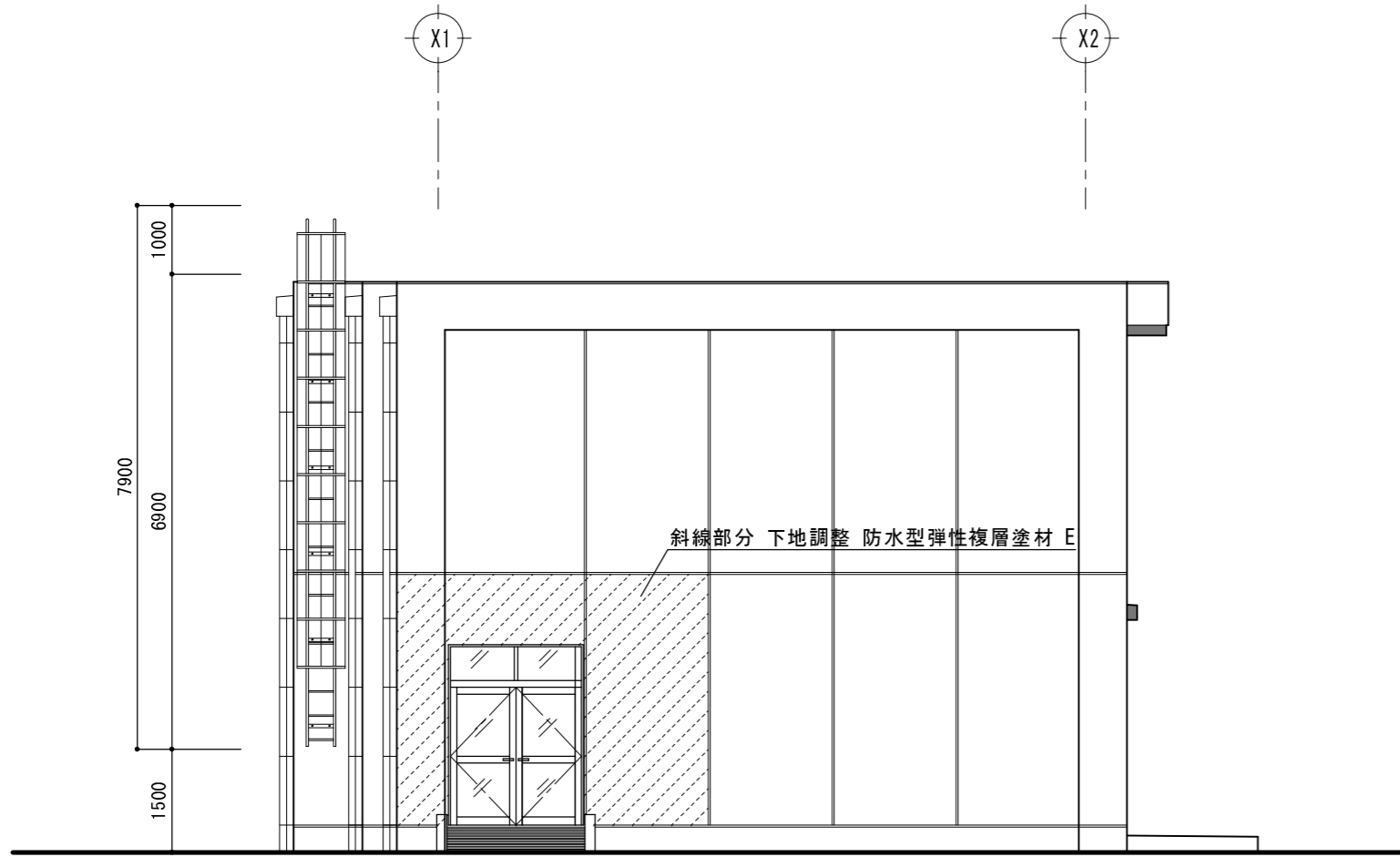
西立面図

特記事項	architects design office KOBAYASHI SEKKEI	DATE 2022. 1	TITLE 松 阪 市 立 嬉 野 中 学 校 校 舎 大 規 模 改 造 工 事 (第 2 期)	NO. K-04
	株式会社 小 林 設 計	〒515-2101 三重県松阪市皇合町2198-2 PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667 知事登録 第1-1556号 小林 康弘	SCALE A2 : 1/100 A3 : 1/141	SUBJECT (解 体 工 事) 美 術 室 棟 立 面 図

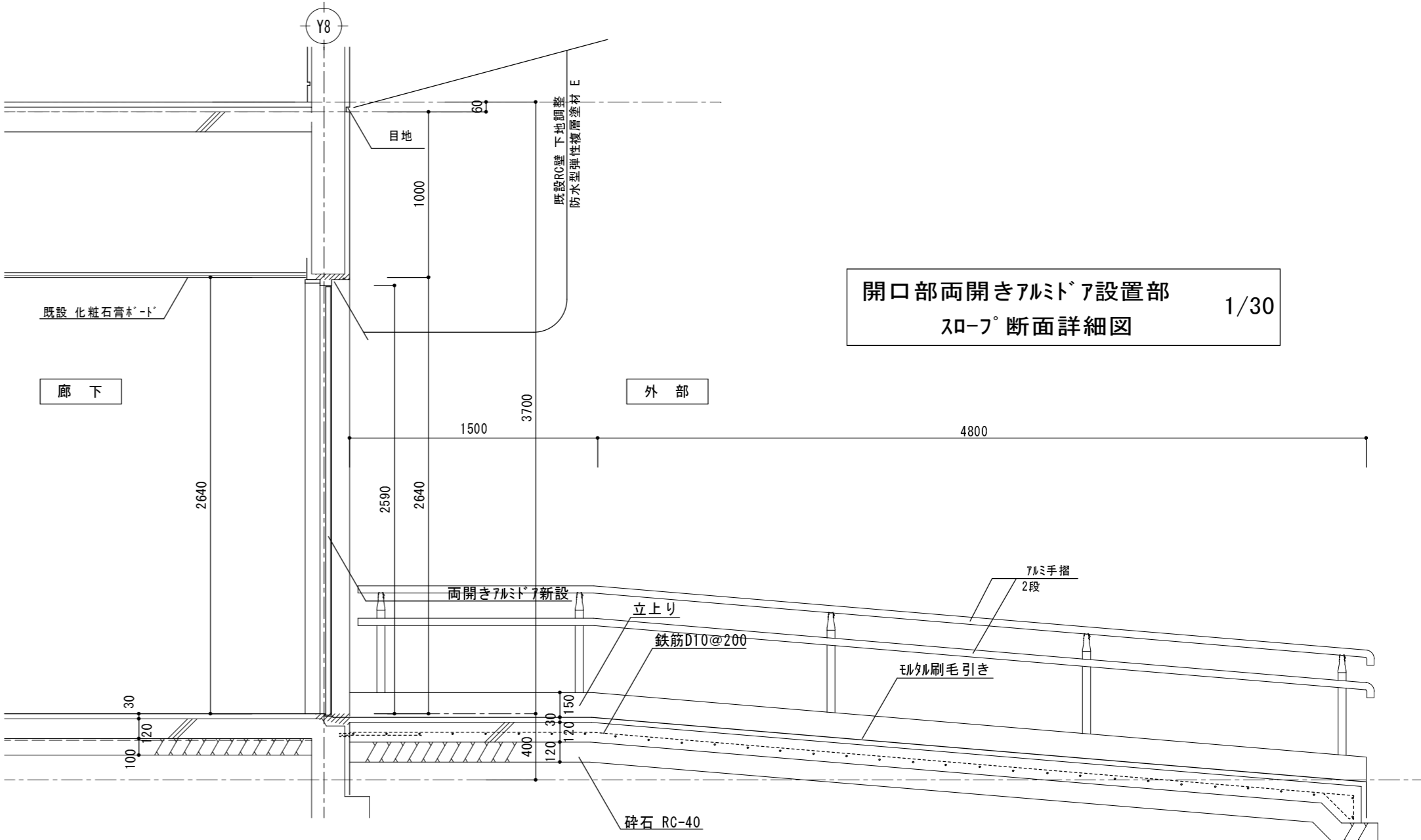


現況撤去 南立面図 1/100

記 号	数 量	両開きアルミド7	1
形 状			
仕 上		シルバー	
見 込		70	
硝 子		スクリーンハートt=4	
付 属 金 物		付属金物一式 レバーハンドル 丁番 ドアチェック フランス落とし アルミ水切 アルミ額縁 ステンレス水切t=1.5 無目 方立 シリナー錠	
備 考		RC用	



改修 南立面図 1/100



開口部両開きアルミド7設置部
スロープ断面詳細図 1/30

特記事項	architects design office KOBAYASHI SEKKEI	DATE 2022. 1	TITLE 松阪市立嬉野中学校校舎大規模改造工事 (第 2 期)	NO. K-05
		SCALE 1/100 1/30 A3:1/141 1/42	SUBJECT 【西校舎】 改修立面図	
	株式会社 小林設計 〒515-2101三重県松阪市星合町2198-2 PHONE 0598-56-9666 FAX 0598-56-9667	管理建築士第198323号 知事登録 第1-1556号 小林 康弘		